

2021

豊橋市景観資源ガイドマップ

景観資源を大切にし、地域らしさに磨きをかけよう



目 次

豊橋の景観	3
はじめに	7
1. ガイドマップの目的と位置づけ	8
2. 景観資源とは	9
3. 本ガイドマップの使い方	9
景観資源の位置と解説	11
A 東部丘陵周辺	12
B 豊川沿川周辺	29
C 三河湾沿岸周辺	36
D 市街地周辺	43
D-1 豊橋駅周辺	53
D-2 二川宿周辺	65
E 南部田園周辺	71
F 表浜沿岸周辺	80

※表紙写真：豊橋市公会堂

Landscapes of Toyohashi

豊橋の景観



Landscapes of Toyohashi

豊橋の景観



◆ 水と緑に包まれ、人と自然が調和した美しいまち とよはし

No.	名 称	No.	名 称		
里 山 の 景	S1	広大な柿畑	里 山 の 景	S37	タカ類
	S2	ニホンイノシシ		S38	みかん山
	S3	カタクリ山		S39	立岩
	S4	富士山の眺め		S40	ホンドタヌキ
	S5	モミ群落		S41	岩屋緑地
	S6	里山の集落（石巻中山町など）		S42	岩屋観音
	S7	馬越長火塚古墳群（国指定史跡）		S43	浜名湖の眺め
	S8	ニホンリス	川 の 景	K1	賀茂神社（本殿：県指定有形文化財）
	S9	本坂道（姫街道）の宿場町「嵩山宿」		K2	賀茂しょうぶ園
	S10	正宗寺		K3	鶴巻の集落（高い榎の生垣の家並み）
	S11	長楽のヒノキ（市指定天然記念物）・ クロガネモチ・しょうべん地蔵		K4	豊川・河畔林
	S12	ゲンジボタル（長彦川）		K5	牛川の渡し
	S13	石巻神社：本社		K6	下地緑地（金色島）
	S14	嵩山蛇穴（国指定史跡）		K7	アオサギ
	S15	石巻神社：山上社		K8	祇園祭の打上花火大会
	S16	玉泉寺のナギ（市指定天然記念物）		K9	豊川放水路
	S17	石巻山		K10	東海道新幹線
	S18	ダイダラボッチ	港 の 景	M1	旧漁村集落（梅敷町）
	S19	ニホンノウサギ		M2	前芝の燈明台（県指定史跡）
	S20	イヌツゲ群生林		M3	旧前芝湊・旧漁村集落（前芝町）
	S21	三ツ口池		M4	六条湯
	S22	サンコウチョウ		M5	スナメリ
	S23	赤岩寺		M6	護岸観音（三十三観音）
	S24	多米の不動滝		M7	日本丸・海王丸
	S25	豊橋自然歩道		M8	豊橋総合スポーツ公園
	S26	多米の道祖神		M9	三河湾・三河港
	S27	ゲンジボタル（内山川）		M10	神野新田の広がりある水田
	S28	鞍掛神社		M11	遊水地・カモ類など
	S29	神石山		M12	三河港：豊橋コンテナターミナル
	S30	里山の集落（岩崎町など）		M13	三河港：大型船と自動車並びの景観
	S31	葦毛湿原（国指定天然記念物）		M14	ライフポートとよはし
	S32	ため池群（宮前池・利兵池など）		M15	造船所など大型工場が立地する明海地区
	S33	普門寺の大スギ（市指定天然記念物）		M16	明海緩衝緑地
	S34	普門寺		M17	汐川干潟・シギ類、チドリ類など
	S35	コゲラ		M18	旧漁村集落（杉山町天津など）
	S36	アサギマダラ			

No.	名 称	No.	名 称	
A1	瓜郷遺跡（国指定史跡）	A35	二川駅	
A2	豊橋創造大学	A36	桜並木（梅田川）	
A3	吉田城址（鉄櫓）・豊橋公園	N1	一里山の一里塚（市指定史跡）	
A4	吉田神社・祇園祭の手筒花火	N2	豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）	
A5	湊築島弁天社（国登録有形文化財）	N3	梅田川	
A6	豊橋ハリストス正教会聖使徒福音者馬太聖堂（国指定重要有形文化財）	N4	天伯湿地	
A7	安久美神戸神明社（国登録有形文化財）・鬼祭（国指定重要無形民俗文化財）	N5	野依八幡社のシダレザクラ（市指定天然記念物）	
A8	豊橋市公会堂（国登録有形文化財）	N6	豊橋技術科学大学	
A9	吉田宿本陣跡	農の景	N7	道の駅とよはし
A10	蒲郡街道（国道23号）のケヤキ並木	N8	広大な畑地（キャベツ畑など）	
A11	こども未来館（ここにこ）	N9	田園を走る豊橋鉄道渥美線	
A12	羽田八幡宮	N10	しあわせ地蔵	
A13	朝市（羽田八幡宮境内）	N11	万場緑地・万場調整池	
A14	路面電車（ほつらム）	N12	豊川用水路	
A15	くすの木通りのクスノキ並木	N13	龍源院のお葉つきイチョウ（県指定天然記念物）	
A16	龍拈寺山門（市指定有形文化財）	N14	河岸段丘崖の斜面林	
A17	路面電車が走る駅前大通り	N15	真田神社：真田祭（大根流し）	
A18	豊橋駅東口駅前広場	N16	茶畑の丘	
A19	豊橋駅	N17	ヒバリ	
A20	民俗資料収蔵室：旧多米小学校（国登録有形文化財）	海の景	U1	太平洋（遠州灘）・水平線の眺め
A21	朝倉川	U2	表浜海岸：砂浜・漁港	
A22	市内電車赤岩口車庫	U3	東観音寺（多宝塔：国指定重要有形文化財）	
A23	岩田運動公園	U4	地引網	
A24	向山緑地：向山大池	U5	海岸林	
A25	向山緑地：梅林園・さくら広場	U6	サーフポイントの海岸	
A26	穂の国とよはし芸術劇場（プラット）	U7	アカウミガメ（産卵地）	
A27	牟呂八幡宮	U8	ハマヒルガオ	
A28	東三河環状線のクスノキ等の並木	U9	海岸林に包まれた集落（高塚町など）	
A29	柳生川	U10	ささゆりの里	
A30	愛知大学・旧本館（国登録有形文化財）	U11	海食崖	
A31	高師緑地			
A32	幸公園：長三池			
A33	河岸段丘崖の斜面林			
A34	東海道の宿場町「二川宿」			

まちの景

はじめに

1. ガイドマップの目的と位置づけ

(1) 目的

豊橋市は、2021年4月に景観法に基づく景観計画を策定しました。この計画では、基本理念を「ともに育む 豊橋らしい こちよい景観」とし、基本方針を「地域の成り立ちや景観資源を大切に、地域らしい景観に磨きをかける」と定めています。また、建築行為等に対する景観配慮指針や景観形成基準（景観法に基づく行為の制限）を定め、景観資源との位置関係に応じて適切な配慮を行うことを示しています。

この景観計画に沿って良好な景観づくりを進めていくには、まず、本市の景観資源を知っていただき、皆で共有し、将来に亘って大切にすることが望まれます。そこで、本ガイドマップで本市の多様な景観資源を紹介することにしました。

景観づくりに取り組む際に本ガイドマップを活用していただき、豊橋らしくこちよい景観を共に育んでいきましょう。

なお、本ガイドマップは現時点の主な景観資源を紹介したものです。随時、掲載する資源を追加するとともに、状況の変化に応じて内容を修正していきます。

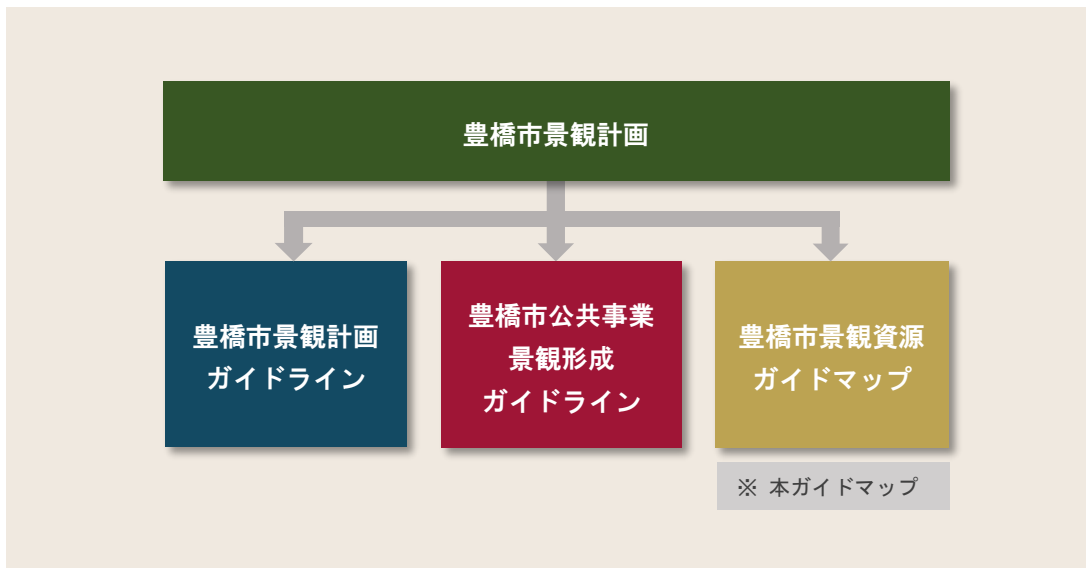
(2) 位置づけ

景観計画を補完する図書として、「豊橋市景観計画ガイドライン」、「豊橋市公共事業景観形成ガイドライン」及び「豊橋市景観資源ガイドマップ（本ガイドマップ）」があります。建築行為等の計画・設計、景観づくりの取り組みを検討する際などに、景観計画とともにこれらをあわせて活用してください。

景観計画では、一定規模を超える建築行為等に対して、豊橋市まちづくり景観条例に基づく事前協議（国又は地方公共団体は任意の事前相談）と、景観法に基づく届出（国又は地方公共団体は通知）が必要となります。こうした手続きにおいて、本ガイドマップを活用しながら景観資源を確認し、良好な景観形成に向けた協議や基準への適合の判断を行います。

また、本ガイドマップは、事前協議や届出等の対象にならない規模の建築行為等に対しても活用していただけるとともに、本市の景観を知っていただく参考書にもなりますので、様々な場面で活用してください。

■ 図 本ガイドマップの位置づけ



2. 景観資源とは

景観資源は、豊橋らしさを構成する重要な要素で、地域の特徴を理解する手掛かりとなります。

山並みや田園といった、一定のまとまりをもった比較的大きなものもあれば、道端の地蔵や住宅の生垣といった小さなものまで、様々なスケールの景観資源が存在します。

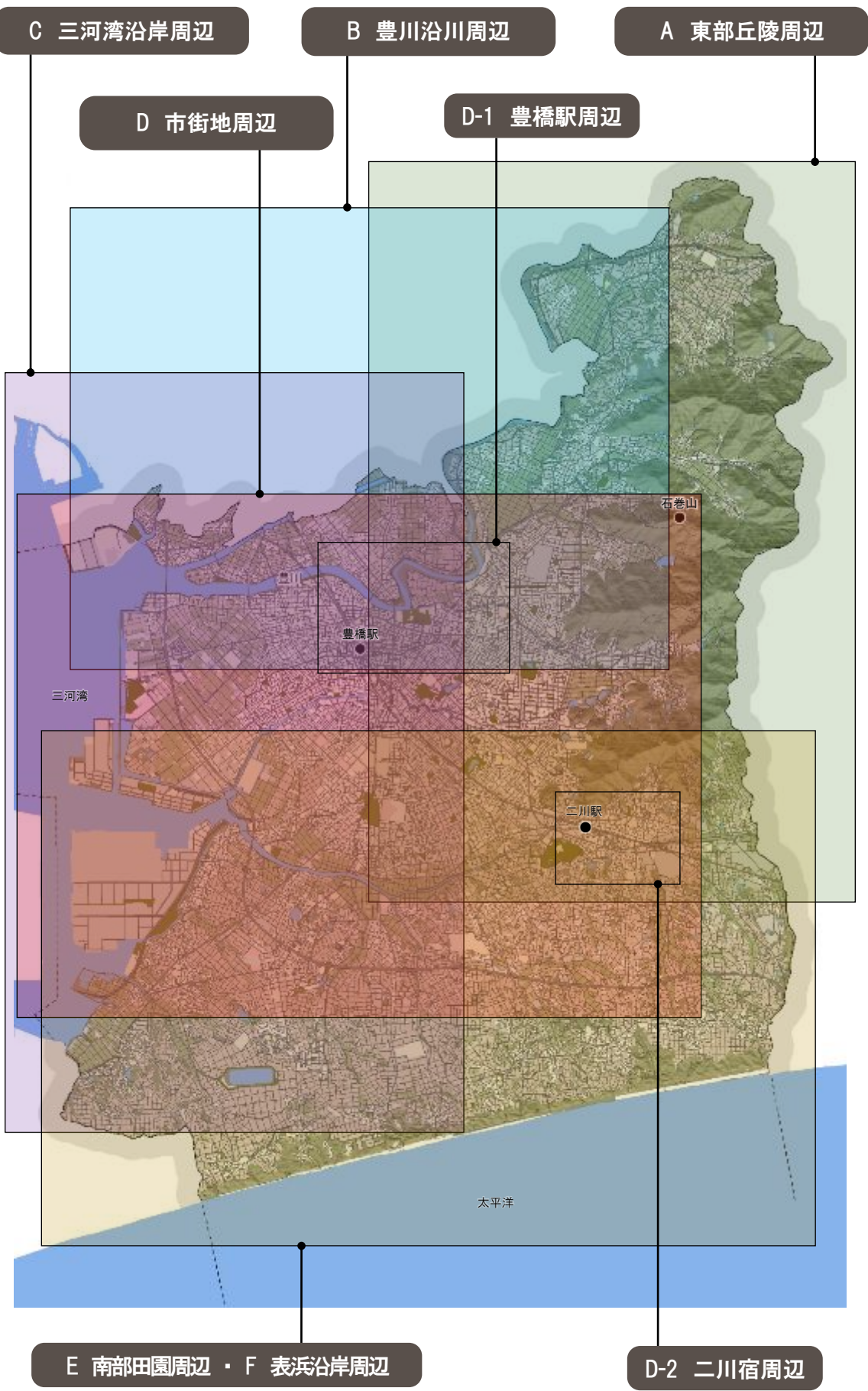
まちの歴史や民話など直接的に目には見えない要素も、実際の景観からそれらを私たちが感じとる点で、重要な景観資源となります。さらに、祭りの日にのみ現れる山車の巡行など伝統に基づく祭りの行事や、季節や時代とともに変化する眺めなど変遷していく様も、重要な景観資源です。

3. 本ガイドマップの使い方

景観計画では、市内を大きく6つの地域に区分し、地域別の方針を示しています。そこで、本ガイドマップにおいても、6つの地域に準じて景観資源を紹介しています。

建築行為等に係る設計士や建築主の方々は、計画や設計、手続きの際に、まず、本ガイドマップ等で敷地周辺にある景観資源の概要を確認し、必要に応じて文献等からより詳しい情報を把握してください。また、現地において敷地と景観資源の眺めを確認し、建築行為等による影響や景観配慮の方法を考えてください。

■ 景観資源マップ Key Plan



景観資源の位置と解説

A. 東部丘陵周辺

この地域は、市街地から眺めると美しい三角形の姿をした石巻山のある弓張山地と、そのふもとに広がる柿畑などの田園により形成されています。

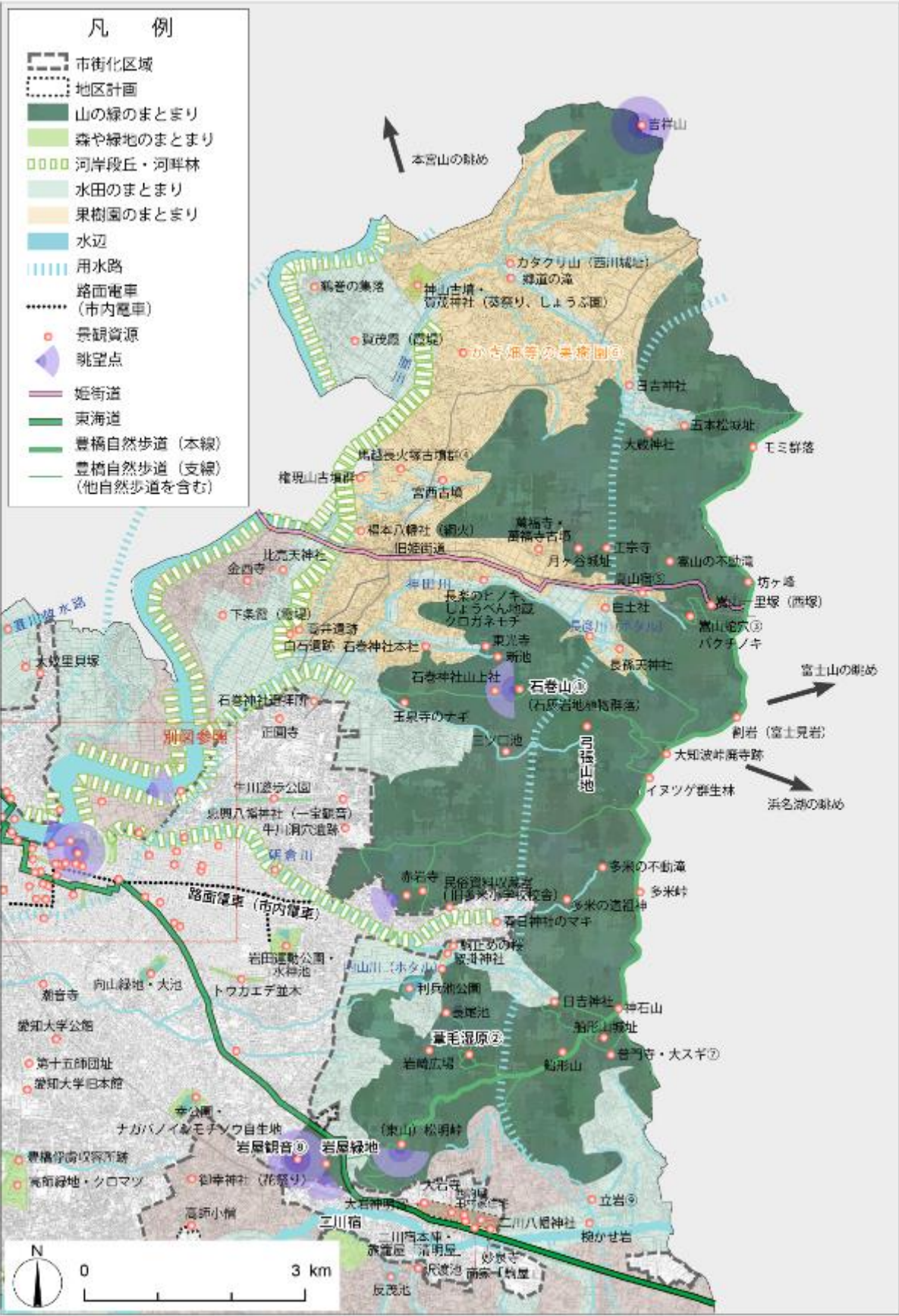
地域の中には、葦毛湿原やイヌツゲ群生林などの貴重な自然景観が点在するとともに、馬越長火塚古墳をはじめとする古墳群や城址などの史跡、普門寺などの社寺も数多く存在し、歴史の趣きのある里山の景観をつくりだしています。



里山のふもとに広がる田園と落ち着いた集落（岩崎町）

A 東部丘陵周辺

A 東部丘陵周辺



いしまきさん

■ 石巻山

標高 358mのシンボリックな山で、その象徴的な姿により、古くから信仰の対象とされてきた。麓には石巻神社本社が、中腹には石巻神社山上社があり、山上社では旧正月に、その年の豊作を占う管粥神事が行われ、山は人々の暮らしと深く結びついてきた。山頂付近は石灰岩が露出する特異な地形で、石灰岩地特有の動植物が生息し、国の天然記念物「石巻山石灰岩地植物群落」に指定されている。



いしまきじんじゃ

■ 石巻神社（本社・山上社） 石巻町

石巻山の麓の本社（下の宮）と中腹にある山上社（上の宮）の二つがある。創建は孝安天皇の頃とも推古天皇の頃ともいわれる。山上社の現在の堂舎は第二次世界大戦後に建て直された。山麓の本社では「ちまき祭（どぶろく祭）」、山上社では「管粥祭」が行われ、地域の伝統行事になっている。



■ イヌツゲ群生林

弓張山地の稜線上にあり、うねるような枝が独特の景観をつくりだしている。イヌツゲの樹高は通常 4~5m 程度であるが、この場所では 7~8m の巨木もある。とよはしの巨木・名木 100 選にも選ばれている貴重な群生林である。



いもうしつげん

■ 葦毛湿原 岩崎町

標高 70m 前後のゆるやかな傾斜地に広がる湧水湿地で、三方を山に囲われ、自然に包まれたこちよい景観がある。高山性植物や東海地方特有の湿地植物、ヒメヒカゲやヒメタイコウチなどの希少な昆虫などが数多く生息し、国の天然記念物に指定されている。近年の大規模植生回復作業により、かつての植生を取り戻しつつある。



いわさきひろば
 ■ 岩崎広場 岩崎町

葦毛湿原からほど近い場所にある自然に包まれた公園で、東部丘陵の北斜面の山裾にある。入り口を進むと庭園が広がり、梅や桜、モミジなど、四季折々の彩りある景観が楽しめる。庭園の奥には、里山として利用されてきた山林が広がっており、自然観察のための散策路が整備されている。その背後には、深い緑の国有林が広がっている。



いわかんのん
 ■ 岩屋観音 大岩町

二川宿の西にある岩屋山の頂に建つ観音像で、その印象的な眺めは、東海道の風物詩として道中記などに取り上げられている。行基が天平2年（730）に岩屋山に観音堂を建立したと伝えられており、聖観音立像は明和2年（1765）に建造された。戦時中に供出されたが、昭和25年に再建され、今も地域のランドマークとして親しまれている。



いわりよくち
 ■ 岩屋緑地 大岩町

東部丘陵の南端にある緑地で、標高約100mの大蔵山と岩屋観音而建つ岩屋山のふたつの小山がある。緑地内の雑木林にはネイチャートレイルが整備され、ボランティア団体が市と協働で里山保全活動を行っている。岩屋山は、チャートの岩山で、浅い洞くつなどの変化のある地形を観察することができる。緑地の上空は、タカ類などの渡り鳥のルートになっている。



う

うちやまがわ
 ■ 内山川（ホタル） 岩崎町

東部丘陵の麓を流れる小河川で、里山に包まれた水田地帯を静かに流れている。河川工事などの影響でゲンジボタルが減少しつつあったが、ホタルの舞う懐かしい景観を取り戻そうと、住民を中心に環境改善が行われてきた。近年は、毎年6月ごろになると、黄緑色の小さな光がふわふわと舞う幻想的な景観を見ることができる。



お

おおくらじんじゃ

■ 大蔵神社 石巻中山町

市の北部にある山に囲まれた落ち着いた集落地に、緑に包まれてひっそりと建っている。創建は明らかでないが、明治維新の際に中山村（石巻中山町）の氏神になった。境内には、推定樹齢 300 年以上のイチイガシの大木があり、とよはしの巨木・名木 100 選に選ばれている。所蔵する雨乞面は、市の有形文化財に指定されている。



おおちぼとうげはいじあと

■ 大知波峠廃寺跡

平安時代中期（10 世紀半ば～11 世紀末）の寺院跡で国の史跡に指定されている。愛知県と静岡県の県境に連なる弓張山地の大知波峠付近（標高約 340～350m）にある。弓張山地の稜線には、豊橋自然歩道の本線が通っており、峠から東側（湖西市側）に少し下ったところに寺院跡の平場がある。浜名湖方面の素晴らしい眺望も楽しめる。



か

かきばた

■ 柿畑

豊橋の北東部は次郎柿の特産地で、弓張山地の麓から豊川に向かうなだらかな丘陵地に、広大な柿畑が広がっている。柿畑は、東部丘陵の山並みや点在する集落とともに、のどかな里地の景観を形成している。春には瑞々しい新緑が丘一面を染め上げ、秋にはつややかな柿の実がたわわに実る。



■ カタクリ山（西川城址） 石巻西川町

戦国時代末期に西郷清員（きよかず）が築城したと考えられている西川城の城址のある小山。北斜面がカタクリの群生地になっているためカタクリ山と呼ばれている。カタクリは、地元住民の手で育てられ、早春には淡いピンク色の花が斜面一面に広がる。山の南側にある大福寺の境内には、五色椿と呼ばれるオトメツバキの古木がある。



かみいしやま

■ 神石山

愛知県と静岡県の県境に連なる弓張山地にある標高約 325m の山。山の南側には由緒ある普門寺や雲谷町の里地があり、西側には岩崎町の里地が広がっている。山頂まで豊橋自然歩道が通っており、山頂の広場からは、浜名湖方面の景色を眺めることができる。



き

きちじょうさん

■ 吉祥山

豊橋市と新城市の境にある標高 382mの独立峰で、堂々とした山容は、古くから信仰の対象になっている。標高 300m 以上は県の自然環境保全地域に指定されている。麓から登山道が整備されており、豊かな自然が楽しめる。山頂は 360 度の展望が得られ、弓張山地の山並みや遠く南アルプスの山々が眺められ、天候が良いと富士山も見える。



ぎよくせんじの なぎ

■ 玉泉寺のナギ 石巻町

市の天然記念物に指定されているナギの大木。幹周 384cm、高さ 15.7m、推定樹齢 500 年以上、枝張りは 17m を越え、円錐形の樹形で、樹勢は今も旺盛である。玉泉寺は、嘉慶元年（1387 年）に死去した慈雲座元の開創によるもので、樹齢もほぼこれに相当すると推定される。



く

くらかげじんじゃ

■ 鞍掛神社 岩崎町

里山に近い水田地帯にあり、社殿は鎮守の森のなかに静かに建っている。社伝によると米山大明神または鞍馬大明神と称して近くの米山に祀られていたが、文治 4 年（1188）に現在地に移ったものである。源頼朝が京へ上る途中に鞍を奉納して武運長久を祈願したことから、鞍掛神社と名を改めたと言われている。



こ

ごうどう たき

■ 郷道の滝 石巻西川町

柿畑が広がる丘陵地を流れる郷道川にある滝。滝の周辺は、郷道の滝公園として整備され、緑に包まれた静かな環境がある。巨岩の上から落差 4 mほどの滝が流れ落ちており、散策路で滝の下の沢まで降りることができる。近くにはカタクリ山がある。



ごほんまつじょうし
■ **五本松城址** 石巻中山町

豊橋の北部方面で勢力を誇った西郷氏の本城の城址である。西郷氏は石巻中山地区を中心に城砦群を築いたが、この城は唯一平地部にあり、規模は150m×150m程度とされる。現在遺構はなく、山に囲まれたのどかな里地に、城址を示す標柱がひっそりと建っている。



こまど さくら
■ **駒止めの桜** 岩崎町

建久元年（1190）、源頼朝が鎌倉街道を通り京の都にのぼるとき、小川のほとりにあった桜の大木に馬をつないだとされるのが駒止めの桜で、鞍掛神社の東100m程のところにある。今は水田地帯を背景に石碑があり、周辺には桜の並木が植えられている。



ごんげんやまこふんぐん
■ **権現山古墳群** 石巻本町

通称「権現山」と呼ばれる独立丘陵（標高68m）の尾根上にある2基の前方後円墳で、県の史跡に指定されている。1号墳は、全長38m、2号墳は全長33mある。今は森になっているが、かつては古墳から豊川下流域を広く望むことができたようで、葬られた人々は、豊川下流域を支配した古墳時代前期の有力首長だったと考えられる。



し

しょうじゅうじ
■ **正宗寺** 高山町

高山の地名の由来となった寺院で、鎌倉時代の永仁年間（1293年～1299年）の創立といわれる。三方を山に囲まれた南向きの谷にあり、参道には巨木が並び、境内は深い森に包まれている。鐘楼・本堂・客殿・庫裏が建ち、東三河でも指折りの巨刹で、国の重要文化財になっている「旧方丈の壁画四五幅」をはじめ多くの文化財を所蔵している。



しらしいせき
■ **白石遺跡** 石巻本町

弥生時代前期の環濠集落の遺跡。豊川とその支流である神田川にはさまれた台地上の端に位置し、眼下には水田が広がっている。低地の水田側から見ると、河岸段丘崖の緑の縁取りの中に埋もれて見える。弥生時代前期の遠賀川土器の出土で知られるが、縄文時代の遺物も数多く採集されている。



しらつちしゃ
■ **白土社** 嵩山町

創建は嘉暦年間（1326～28）と伝えられ、嵩山村の産土神である。嵩山町の山裾にひっそりと建ち、境内には芝居小屋が残っている。鰐口が市の有形文化財に指定されている。



しんいけ
■ **新池** 石巻町

石巻山の北側にある神秘的な雰囲気のため池。三方を山に囲われ、周辺の緑が池に覆いかぶさるように生い茂り、鏡のような水面に緑が映り込んで見える。空気が澄んだ静かなときには、山からこだまが返ってくる。



す

すぎもとはちまんしゃ
■ **相本八幡社（綱火）** 石巻本町

豊川の河岸段丘上の鬱蒼としたスギ林のなかにひっそりとたたずむ神社。鳥居をくぐり石段を上がると広い境内が現れ、緑に包まれて社殿が建っている。毎年10月に豊年祭りが行われ、綱火や手筒花火が奉納される。花火が水平に走る綱火は市の無形民俗文化財に指定されている。



すせいちりづか
■ **嵩山一里塚（西塚）** 嵩山町

江戸日本橋から数えて73番目の一里塚で、東海道の見附宿（磐田市）と御油宿（豊川市）を結ぶ本坂道（姫街道）の途中にある。県境の本坂峠から麓の嵩山宿に至る山の中腹にあり、直径約10m、高さ約2mの塚が山道の両側にあり、当時の状態を保っている。市の史跡に指定されている。



すせしゆく
■ **嵩山宿** 嵩山町

東海道の見附宿（磐田市）と御油宿（豊川市）を結ぶ本坂道（姫街道）の宿場町で、弓張山地の麓にある。宝永4年（1707）の地震で、東海道の今切の渡しが通行できなくなると、大いに賑わったという。歴史的なまち並みは残っていないが、のどかな集落の景観が、かつてを偲ばせる。



す せ じゃあな
■ 高山の蛇穴 高山町

標高 140m ほどの山腹にある洞窟で、入口は高さ 1.3m 程あり、奥に 70m ほどまで入ることができる。縄文時代の洞穴遺跡で、国の史跡に指定されている。約 1 万年前の押型文土器をはじめ、石器や貝などの遺物が発見されている。名前は大蛇が住んでいたという言い伝えからついた。周辺は石灰岩地質で、清水が湧き出る水穴や、バクチノキなどの独特の植生が見られる。



せ

せきがんじ
■ 赤岩寺 多米町

高野山真言宗の寺院で、行基菩薩が聖武天皇の願いを受けて神亀 3 年（726）に創立した。本尊は阿弥陀如来像で、室町期の仏像である。木造愛染明王坐像が国の重要文化財に指定されており、参道には立派な仁王門がある。山号の赤岩は、山腹にある大岩が赤色をしていることからつけられた。境内のある山は赤岩緑地と風致地区に指定されており、春のヤマザクラや秋の紅葉など、歴史とともに彩りある自然景観が楽しめる。



た

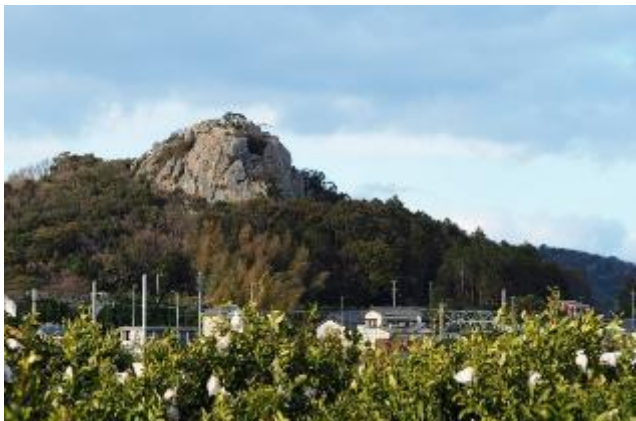
たかいいせき
■ 高井遺跡 石巻本町

豊川とその支流である神田川にはさまれた台地上にある弥生時代を中心とした遺跡。方形周溝墓と後期の環濠が発見され、多量の土器も出土している。環濠の大きさから、かなり大規模な集落であったと考えられる。



たていわ
■ 立岩 雲谷町

二川宿の東にある切り立った岩山で、緑の中から巨大なチャートの岩がそびえたち、独特の景観を見せている。遠くからでも見えるため、街道の名所として多くの道中記に取り上げられている。



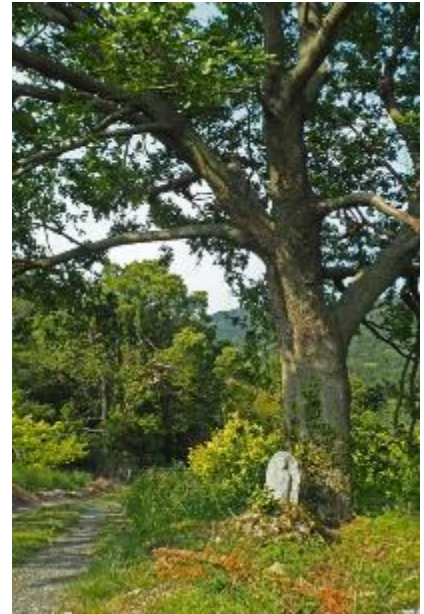
た め と う げ
■ 多米峠 多米町

豊橋市多米東町と湖西市大知波を結ぶ標高 265mの峠。古くから東西を結ぶ街道があり、人馬の往来が盛んであったと言われている。昭和 41 年（1966）に多米トンネルが開通した。トンネルの手前に多米自然歩道の入口があり稜線の豊橋自然歩道本線まで登れる。トンネルの手前には休憩所があり、木々の間から市街地が眺められ、夜景も見られる。



た め ど う そ じ ん
■ 多米の道祖神 多米町

多米峠に至る道と不動滝に至る道が Y の字に分岐するところに 1 本の大きな木が生えており、その根元に道祖神がある。「右えん州、左たき」と刻まれており、かつては、遠州に繋がる峠越えの街道があったことを偲ばせる。周辺は柿畑になっており、近くには滝ノ谷池やビオトープがある。山にやさしく包まれた空間に、1 本の大きな木と、小さな道祖神がある景観は、懐かしい気持ちにさせてくれる。



た め ふ ど う だ き
■ 多米の不動滝 多米町

多米峠の西側の谷にある落差 4 m 程の滝で、緑に覆われた谷筋に滝の音が心地よく響いている。県道から脇に入り山林のなかを少し歩くと朝倉川の源流である沢が現れ、その先に滝が見える。滝の上の堂内には不動明王が祀られ、周辺の岩上にも数体の石仏が祀られている。



と

と う こ う じ
■ 東光寺 石巻町

石巻山の北にある臨済宗妙心寺派の寺院で、山号は湯王山、本尊は薬師如来立像である。山に包まれた里地の奥にあり、山門のある苔むした石段を上がると、深い緑の山を背景に本堂が静かに建っている。寺院前には、ひな壇状の里地があり、西を眺めると里山の集落や遠くに市街地が見える。



とよはしぜんぽどう

■ 豊橋自然歩道

弓張山地一帯に整備された自然に親しむための遊歩道で、本線の尾根道は北の中山峠から南の松明峠まで続いており、モミ群落やイヌツゲ群生林などの景観資源が点在している。また、麓の集落と本線を結ぶ支線が数多く整備されており、石巻山や葦毛湿原、赤岩寺など、自然と歴史の景観資源を楽しみながら歩くことができる。本線からは豊橋の市街地や浜名湖などを眼下に望むことができ、天候の良い時には富士山も眺めることができる。



な

ながおいけ

■ 長尾池 岩崎町

葦毛湿原の入口に位置する農業用のため池。静かな水面には、東部丘陵の山並みや周辺の林が映り込んで見える。池の脇には葦毛湿原や弓張山地の稜線につながる岩崎自然歩道（豊橋自然歩道の支線）が通り、休憩所も整備され、自然の景観を楽しむことができる。



ながひこがわ

■ 長彦川（ホタル） 高山町

三方を山に囲まれた水田地帯に流れる小河川で、毎年6月ごろになるとゲンジボタルが飛び交う幻想的な景観を見ることができる。お彼岸の時期には、周辺の稲穂が黄金色になり、あぜに咲く真っ赤なヒガンバナとともに懐かしい里山の景観を見せてくれる。



■ ^{ながら}長樂のしょうべん地蔵とクログネモチ ^{じぞう} 石巻本町

長樂のしょうべん地蔵とクログネモチは、長樂の集落の横にあり、地蔵は民話「しょうべん地蔵」として語り継がれ、住民に大切にまつられている。クログネモチは、地蔵のすぐ後ろに生えており、推定樹齢は250年以上で、とよはしの巨木・名木100選に選ばれている。



■ ^{ながら}長樂のヒノキ 石巻本町

長樂の集落の横にある古木で、里山の麓に広がる田園地帯に趣きのある景観を生みだしている。樹木の下部は落雷のために焼けて空洞になり、先端は枯死している。まれにみる古木で、すぐ横に「しょうべん地蔵」があり、「地蔵檜」と呼ばれて親しまれている。推定樹齢は300年以上で、市の天然記念物に指定されている。



ひ

■ 東山 (松明峠)

弓張山地の尾根の南端にある標高 258mの山。山頂まで豊橋自然歩道の支線である東山自然歩道と二川自然歩道が通り、自然にしみながら登ることができる。山頂からは、西側に豊橋の市街地や三河湾を一望でき、南側に二川のまち並みを眼下にし、南部田園地域や太平洋を遠望することができる。



■ 姫街道

江戸時代の東海道の脇街道で、見附宿（磐田市）と御油宿（豊川市）を結んでいた。文化庁の「歴史の道百選」に選定されている。弓張山地の本坂峠から麓の嵩山宿までは、豊橋自然歩道の支線になっており、一部に石畳が敷かれ、歴史に思いを馳せるとともに、小鳥たちのさえずりを聴きながら、気持ちよく森を歩くことができる。



■ 日吉神社 石巻荻平町

創建は明らかでないが、西郷七か村の総氏神として崇敬されてきた。社殿は里山の麓の鬱蒼としたスギ林の中にあり、里地からは入口の灯笼と朱色の鳥居が見える。ここには、5つの雨乞の面があり、いずれも市指定有形文化財になっている。境内には、とよはしの巨木・名木 100 選に選定されているアベマキの大木がある。



ふ

■ 船形山

弓張山地の南端近くにある標高 276mの山で、山頂が船底型にカーブを描いており、麓の里地からその姿がよくわかる。戦国時代には山頂に城が築かれ、今も土塁の一部が残っている。山裾には、由緒ある普門寺があり、山号は船形山（せんぎょうさん）である。



ふながたやまじょうし
 ■ 船形山城址 雲谷町

三河と遠江の国境にある城で、船形山の山頂に築かれた。戦略上重要な拠点であったため、戦国時代にはたびたび戦いがあり、麓の普門寺も全山焼失にあっている。尾根上には豊橋自然歩道の本線が通っており、城の遺構は東西に分かれて分布している。



ふもんじ
 ■ 普門寺 雲谷町

船形山普門寺は、高野山真言宗の寺院で、奈良時代の神亀4年(727)に行基が開山したと伝わっている。国の重要文化財の釈迦如来坐像をはじめ、多数の文化財が所蔵されている。山深い境内には、仁王門や鐘楼門、本堂などの歴史ある建造物が静かに佇み、春は桜、初夏はアジサイ、秋は紅葉と四季折々の美しい景観が見られる。



ふもんじ おお
 ■ 普門寺の大スギ 雲谷町

普門寺の本堂前にある大木で、長い石段の先に空に向かって真直ぐに生えている姿が見える。豊橋で最も大きなスギで、幹周りは588cm、樹高28.1m、推定樹齢400年以上である。市の天然記念物に指定されており、とよはしの巨木・名木100選にも選ばれている。



ま

まごしながひつかこふんぐん
 ■ 馬越長火塚古墳群 石巻本町

広大な柿畑の中にある市内最大の古墳で、横穴式石室を持つ前方後円墳である。石室の構造や副葬品などからみて、東海地方を代表する首長の墓で、6世紀末に築造されたと考えられている。出土品は国の重要文化財に指定され、周辺の二つの古墳とあわせ、「馬越長火塚古墳群」として国の史跡に指定されている。周辺は県内有数の古墳地帯である。



まんぶくじ
■ **萬福寺** 嵩山町

臨済宗妙心寺派の寺院で、創建は貞和3年（1347）と伝えられている。本堂脇の阿弥陀堂に、平安時代末から鎌倉時代初頭の作と推定されている阿弥陀如来坐像が安置されており、県の有形文化財に指定されている。境内には、萬福寺古墳がある。



まんぶくじこふん
■ **萬福寺古墳** 嵩山町

萬福寺の境内の緩斜面にある古墳で、市の史跡に指定されている。直径12mの円墳で、主体部は奥行きが8.3m以上の横穴式石室になっている。6世紀中ごろの築造と考えられ、被葬者は、出土品の内容からムラの有力者と推定されている。



み

みつくちいけ
■ **三ツ口池** 石巻町

石巻山の南側の山間にある調整池で、元々はため池であったが、豊川用水事業により貯水量24.3万m³の施設に整備された。三方を山に囲われ、北側には石巻山の山頂部の岩頭が見える。冬にはカモ類などが飛来し、周辺ではタカ類の飛翔を見ることができると、一年を通じて様々な鳥類が観察できる。



みやにしこふん
■ **宮西古墳** 石巻本町

東西の直径約12m、高さ約2mの円墳で、内部には横穴式石室と呼ばれる石積みの棺をおく部屋が造られており、市の史跡に指定されている。発掘調査で、勾玉などの装身具、大刀などの鉄製品が出土している。付近には十数基の古墳が集中しており、馬越北山古墳群を形成している。



も

もみぐんらく
■ **モミ群落**

弓張山地の中山峠周辺にあるモミの群落で、豊橋自然歩道沿いに樹高20mものモミが見られる。このような標高の低いところに群落が見られるのは大変珍しい。とよはしの巨木・名木100選に選ばれている。



り

りひょういけこうえん
 ■ 利兵池公園 岩田町

農業用のため池である利兵池を中心に整備された公園で、約 0.8ha の広さがある。この一帯は、17 世紀に新田開発が行われ、利兵池の名前は、ため池を造った開発者の名をとって命名されたという。水辺には散策路が整備され、東部丘陵の山並みを背景にし、水と緑の潤いある景観を眺めることができる。



わ

わちが やじょうし
 ■ 月ヶ谷城址 高山町

豊橋の北部方面で勢力を誇った西郷氏の城の一つで、城址は正宗寺の南西にあり、曲輪、堀、土塁などの遺構が確認できる。北につながる尾根は、西郷氏の本城である五本松城（石巻中山町）に通じている。



われいわ ふじみいわ
 ■ 割岩（富士見岩）

愛知県と静岡県の県境にある豊橋自然歩道の本線上にある大きな岩で、割れ目がある。ハイキングの休憩場所には最適で、眼下に浜名湖のすばらしい眺めが得られ、天気の良い日には、遠く富士山や南アルプスも見える。



B. 豊川沿川周辺

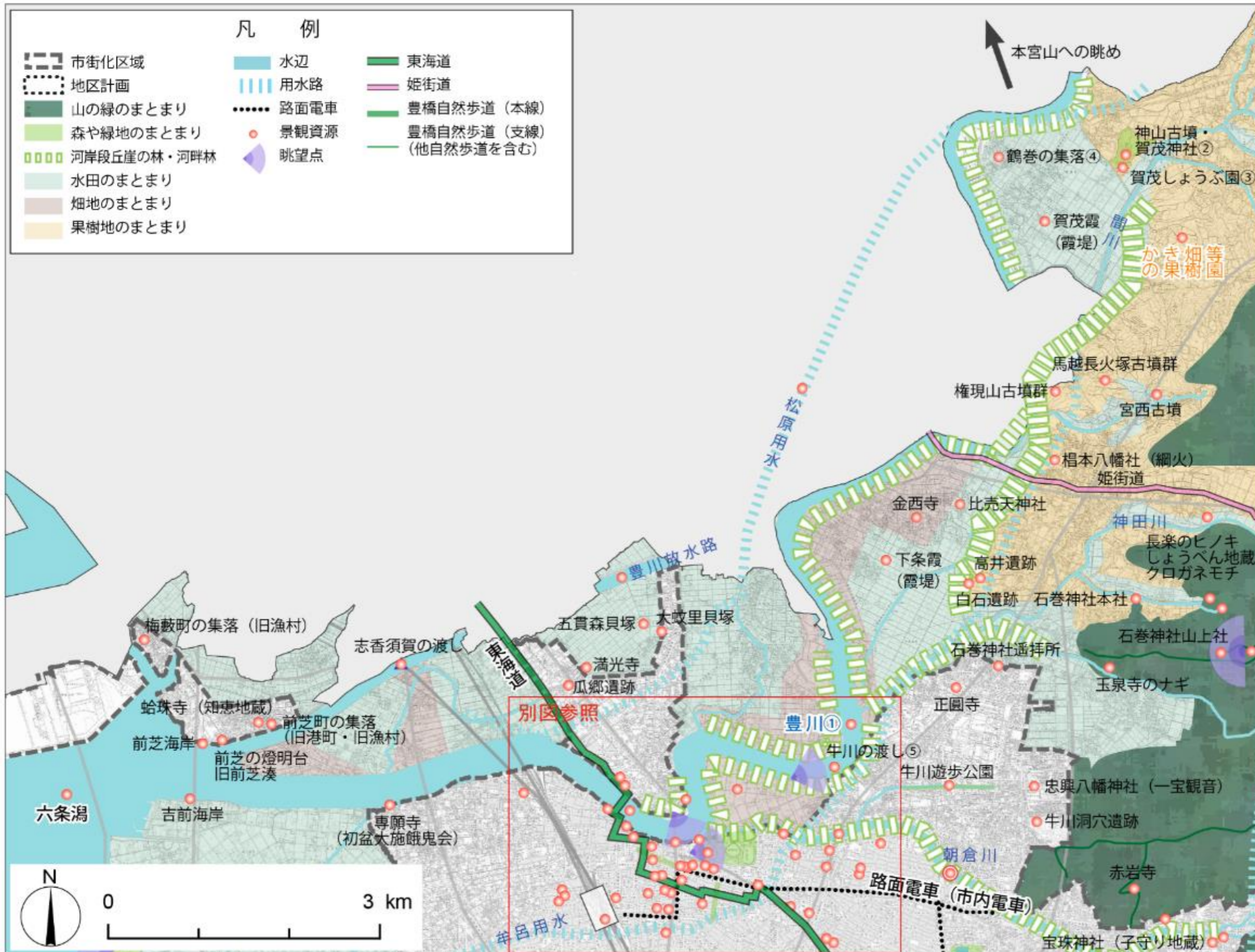
この地域は、清らかに水をたたえて流れる豊川と、これに沿って広がる水田などの田園により形成されています。東部丘陵や本宮山の山並みが、地域の背景になっています。

豊川は全国屈指の清流で、中心市街地にある吉田城址の横をゆったりと蛇行し、まちに潤いをもたらしながら三河湾へ流れています。吉田城址より上流部は河畔林に覆われており、沿川の田園景観の緑の背景となっています。また、江戸時代に治水のために設けられた霞堤と呼ばれる不連続な堤防が見られます。



豊川沿いに広がる田園と落ち着いた集落（下条西町付近）

B 豊川沿川周辺



う

■ うしかわ わた 牛川の渡し 牛川町、大村町

一級河川豊川の両岸を結ぶ渡し船として昭和7年（1932）から豊橋市営として運航しており、市道の一部になっている。豊川の渡しは、平安時代からあったと言われており、今も通勤、通学のために市民に利用されている。船頭が長い竿で船を操る懐かしい景観が見られる。



か

■ かすみでい 霞堤 牛川町、下条東町、下条西町、賀茂町 他

霞堤は、堤防の一部分に切れ目をつくり、増水時に水を遊水地に導くことで下流部の洪水被害を軽減するものである。戦国時代から長い年月をかけて造られたと推定されている。昭和30年代には9か所の霞堤があったが、豊川放水路の完成後、右岸側の5か所が締め切れ、現在は、左岸側に牛川、下条、賀茂、金沢の4か所の霞堤が残っている。

■ かみやま こふん 神山古墳 賀茂町

賀茂神社の境内にある古墳で、静かな林の中に直径28mの円墳がほぼ完全な形で保存されている。6世紀前後に造られた地方の豪族の墓と考えられており、市の史跡に指定されている。

■ かち えん 賀茂しょうぶ園 賀茂町

賀茂神社の参道入口にあるしょうぶ園で、約300種、3万7千株のしょうぶが植えられている。毎年5月から6月にかけて花しょうぶまつりが開催され、夜のライトアップも行われる。



か も じんじゃ あおいまつり
■ 賀茂神社（葵祭） 賀茂町

天平元年（729）に京都の賀茂別雷神社より勧請して創建されたといわれ、本殿は県の有形文化財に指定されている。境内は「ふるさと文化財の森（文化財建造物の修理に必要な資材のモデル供給林及び研修林）」に設定されたヒノキ林に包まれており、市史跡の神山古墳がある。毎年4月には、葵祭りと呼ばれる大祭が行われる。



こ

ご かんもりかいづか
■ 五貫森貝塚 大村町

縄文晩期後半から弥生前期にかけての遺跡。現在は遺跡の面影をとどめていないが、貝塚は、豊川に生息していたヤマトシジミを主に、ハマグリやカキなどの海水産の貝で構成されていた。縄文土器や石器、土偶なども出土している。



こんさいじ
■ 金西寺 下条東町

前身は正法寺といい、創建は明応2年（1493）、再興改修が元和5年（1619）と伝えられている。寛永年間に金西寺と改めた。本尊の千体地藏菩薩像は、室町時代の作といわれている。



し

しかすがわた
■ 志香須賀の渡し

かつて豊川の河口付近は幅が4kmほどあり、平安時代には、川を渡す「志香須賀の渡し」があった。渡しの場所は1か所ではなく、川の流れの変化や中洲の発達によって様々に変わっていったようである。

しもじりよくち こんじきしま
■ 下地緑地（金色島） 下地町

豊川右岸の蛇行部に土砂が堆積して陸地状になった場所で、島の名称がついているが陸続きである。中央部にはこんもりとした森があり、対岸の豊橋公園の緑や遠くの東部丘陵の緑とともに、豊かな水と緑の景観を保っている。干潮時には砂浜が現れ、汽水域の貝類や甲殻類を見ることができる。



つ

■ つるまき しゅうらく 鶴巻の集落 賀茂町

賀茂町の豊川沿いにある集落で、屋敷を背の高いイヌマキが取り囲んでおり、集落の道に入ると迷路のような独特の景観が見られる。イヌマキの生垣は、本宮山から吹きおろる強風から家屋を守ることや、洪水時の家財流出を防ぐために植えられたと言われている。集落内には、武田信玄の軍師となった山本勘助の生誕の碑がある。



と

■ とよがわ 豊川

奥三河を源流とし、東三河を蛇行しながら三河湾に注ぐ一級河川。戦国時代から、豊川下流域の洪水の被害を最小限におさえるため、流域に霞堤が築かれた。吉田大橋より上流は、河畔林が茂る豊かな自然景観が見られる。平成 15 年(2003)の全国一級河川の水質測定結果では、全国 5 河川と並び、最上級(第 1 位)にランクされた。

■ とよがわ かはんりん 豊川の河畔林

豊川の河川敷や堤防には、エノキ、ムクノキ、タブノキなどが茂り、豊かな緑が川の流れを包み込んでいる。河畔林には、キツネやタヌキ、イタチなどの哺乳類をはじめ、数多くの鳥類や昆虫類が生息し、生き物たちの移動経路にもなっている。牛川の渡しの下流部には、牛川遊歩道が整備され、鳥たちのさえずりを聴きながら河畔林のなかを心地よく散策できる。

■ とよがわほうすいろ 豊川放水路

豊川下流部を洪水から守るために造られた延長約 6.6km の水路で、昭和 40 年(1965)に完成した。コンクリート河床の上の土砂にヨシなどが茂り、冬には多くのカモ類が集まる。



ひ

ひ め てんじんしゃ
■ **比売天神社** 下条東町

豊川沿いの水田地帯の集落にある神社で、社宝に雨乞面を所蔵している。雨乞面は、女面が1つ、祭礼用面が4つ、合計5面あり、いずれも市の有形文化財に指定されている。



■ **広がる水田** 下条東町・下条西町

豊川左岸の低地に、河岸段丘の斜面緑地に縁取られた水田地帯が広がっている。遠くには東部丘陵の山並みとシンボリックな石巻山の姿があり、ふるさとも感じる穏やかな眺めが得られる。稲穂が黄金色に染まるころは、特に美しい景色になる。



ほ

ほんがんじ
■ **本願寺** 賀茂町

鶴巻の集落にある曹洞宗の寺院で、創立は不明であるが、もとは天台宗の古刹であったといわれている。墓地内には、武田信玄の軍師となった山本勘助の父母の碑と称する墓がある。寺の近くには、山本勘助生誕の碑がある。



ほんぐうさん なが
■ **本宮山の眺め**

本宮山は、豊川市、新城市、岡崎市にまたがる標高789mの山で、豊橋市の市街地からも眺められる。その大きな山並みは、豊橋のまちの背景になっており、市民の暮らしに落ち着きをもたらしている。



ま

■ まつばらようすい 松原用水

豊川右岸の水田をかんがいする農業用水で、新城市の牟呂松原頭首工で豊川から取水している。取水した水は、豊橋市の賀茂町で牟呂用水と松原用水に分かれ、松原用水は、豊川をサイホンで潜り、豊川の右岸に出て約 12km 流れている。平成 29 年（2017）に、世界かんがい施設遺産に松原用水・牟呂用水が登録された。



C. 三河湾沿岸周辺

この地域は、三河湾の埋め立てによりつくられた港のある工業地帯と、神野新田の広がりある水田地帯により形成されています。

河口部の水辺には、一年を通して渡り鳥が訪れる豊かな生態系のある汐川干潟や六条潟が広がっており、三河湾に面して緑豊かな総合スポーツ公園が整備されています。また、護岸観音（三十三観音）などの歴史資源も見られます。



産業道路が交差する三河港周辺

C 三河湾沿岸周辺

C 三河湾沿岸周辺



あ

あけみ かんしゅうりよくち
■ **明海緩衝緑地** 明海町

三河湾沿岸の埋立てにより明海地区の臨海工業地帯が造成された際に、陸地との緩衝帯として設けられた緑地。工業地帯の東側に通る幹線道路に沿って、中高木の木々が生き茂る緑地帯が約4Kmに亘って繋がっている。



あけみ ちく りんかいこうじょうちたい
■ **明海地区（臨海工場地帯）** 明海町

三河港に隣接する広大な工業地帯で、三河湾沿岸の埋立てにより造成された。工業専用地域に指定されており、自動車関係の企業をはじめ、製造、物流など、様々な業種の大型企業が立地している。地区内には、企業専用の岸壁が整備され、大型船が接岸する景色も見られる。



う

うめやぶちょう しゅうらく きゅうぎよそんしゅうらく
■ **梅敷町の集落（旧漁村集落）** 梅敷町

かつて三河湾の漁業で栄えた漁村集落。それぞれの宅地には、敷地の北側に大屋根の母屋が、東側に離れや作業小屋があり、それらが整然と建ち並び、美しい屋根並みが見られる。昭和40年代初めまでは漁村として栄え、現在は、路地に建ち並ぶ家々や歴史ある社寺が、往時の面影を伝えている。



お

おおにしかいづか
■ **大西貝塚** 牟呂大西町

縄文時代晩期の東海地方最大の貝塚で、かつての三河湾海浜部に立地している。石器や骨角器などの日常生活の遺物が少なく、居住地も発見されていないことなどから、干し貝を専門につくる加工場であったと考えられている。現在はほとんどが宅地になっており、墓地のところに貝殻が露出している。



き

■ きゅうまえしばみなと
旧前芝湊 前芝町

豊川河口部右岸の前芝村にあった湊。江戸時代には、江戸方面などへの廻船も出入りし、川岸には廻船問屋や年貢納入米の倉庫があった。また、豊川上流や信州方面の物資も豊川を下り荷揚げされ、各地に送り出されていた。伊勢参宮の渡船もかなり出ていたようである。



け

■ けいせいづか
傾城塚 杉山町

杉山町字天津に祀られた小さな五輪塔。かつて、この地の新田開発のために堤防締切りをしたが失敗続きであった。1人の遊女（傾城ともいう）が堤防を締め切るために、自ら人柱になったところ、たちまちにして堤防の締切りに成功したことから、遊女を弔うために塚が築かれたという。



こ

■ ごがんかいがん さんじゅうさんかんのん
護岸海岸（三十三観音） 神野新田町

神野新田の干拓のためにつくられた防波堤にある観音像で、新田を見守るように静かに佇んでいる。大日如来を起点として33体の観音が100間おきに安置されている。住民が安全祈願のために巡回し、堤防の破損を早期に発見することも考えられたという。



し

■ しおかわ ひがた
汐川干潟

三河湾の最深部に広がる約280haの干潟で、全国有数の渡り鳥の飛来地である。年間を通じて水鳥が観察でき、春と秋はシギ・チドリが、冬はカモ類が集まる。豊橋市と田原市にまたがっており、豊橋側からは、田原市の蔵王山を背景にした広がりある自然景観が見られる。



じんの しんでんとう すいでん
■ **神野新田等の水田** 神野新田町他

三河湾沿岸の干拓によってつくられた新田で、水平に広がる田園景観が見られる。災害などによる幾多の困難を乗り越えて整備された。当時の防波堤は人造石工法で築かれ、新田全体は明治 29 年（1896）に竣工した。



す

すぎやまちょうあまづ しゅうらく きゅうぎよそんしゅうらく
■ **杉山町天津の集落（旧漁村集落）** 杉山町

三河湾に流れ込む紙田川の河口付近にある集落で、漁村であったころの面影を残している。昭和 40 年代初めまで、遠浅の海で海苔の養殖などが盛んに行われ、集落の近くには船かけと呼ばれる小さな港があった。現在でも、迷路のような路地に沿って家々が建ち並んでいる。



と

とよはし
■ **豊橋コンテナターミナル** 神野西町

三河港にあるコンテナ輸送の港湾基地で、平成 10 年（1998）に神野ふ頭 7 号岸壁で共用を開始し、その後、平成 20 年（2008）に第 8 号岸壁に 2 基目のガントリークレーンを増設し稼働している。外国貿易の定期航路として、韓国航路や中国・ベトナム航路が就航している。大型船にコンテナを積み卸すダイナミックな様子が見られる。



とよはしそらうごう こうえん
■ **豊橋総合スポーツ公園** 神野新田町

豊橋市のスポーツ活動の拠点に位置づけられた公園で、三河湾の臨海部にある。緑に包まれた広大な敷地には、総合体育館をはじめ、サッカー場、野球場、アクアリーナ豊橋（屋内プール・アイスアリーナ）などが整備されている。芝生広場や遊水地を望む緑地も整備され、市民の憩いの空間になっている。



ほ

■ **ポートインフォメーションセンター** 神野ふ頭町

三河港の役割や魅力を紹介する体験型の展示施設で、「日本一の自動車港湾・三河港を知る・学ぶ・楽しむ」を展示テーマにしている。高さ約 30mの展望室からは三河港を一望でき、巨大な自動車運搬船や三河湾に沈む夕日を眺めることができる。



ま

■ **前芝海岸** 前芝町

豊川河口右岸にある三河湾沿岸の海岸で、六条潟につながる干潟が広がっている。干潟にはアサリなどの二枚貝が生息するなど、様々な生き物が観察できる。冬には内湾を好むカモ類が数多く見られる。

■ **前芝町の集落（旧湊町・旧漁村集落）** 前芝町

豊川河口部にある集落で、江戸時代に前芝湊のある湊町として栄えた。昭和 40 年代初めまでは、海藻養殖やアサリ採取が盛んな漁村としても栄えていた。現在は、生業としての漁業は見られなくなったが、路地に建ち並ぶ家々や歴史ある社寺が、往時の面影を残している。

■ **前芝の燈明台** 前芝町

豊川河口部右岸にある燈明台で、海上航行の安全と吉田湊・前芝湊の指針として、寛文 9 年（1669）に吉田藩が建設した。前芝村の村民により毎夜点灯され、災害で幾度も損壊したが、その都度藩により修復されてきた。現在のものは昭和 41 年（1966）に復元されたもので、愛知県の史跡に指定されている。



み

み かわこう

■ 三河港

豊橋市、田原市、蒲郡市、豊川市にわたる港湾で、昭和 39 年（1964）に港湾法の重要港湾に指定された。自動車貿易では、輸出入ともに世界のトップレベルの取り扱いを誇っている。三河湾の奥に位置し、半円形の形態をしており、背後地は工業用地になっており、自動車関連工場など、数多くの企業が立地している。



み かわこうおほし

■ 三河港大橋 杉山町

豊橋渥美線（愛知県道 2 号）の橋で、汐川干潟の北側に架かる。昭和 57 年に完成し、延長 1780m、上下 4 車線を有し、豊橋市と田原市をつないでいる。橋上からは、遠く三河湾周辺の山並みや三河港、汐川干潟の眺めが得られる。



み かわわん

■ 三河湾

渥美半島と知多半島に囲まれた海で、湾の周辺は概ね三河湾国定公園に指定されている。湾内にはスナメリが生息し、豊橋市のある東側には六条潟や汐川干潟があるなど、豊かな自然環境を有している。湾の東は、三河港に指定されており、湾内には大型船が往来している。



よ

よしぎきかいがん

■ 吉前海岸 吉前町

豊川河口左岸にある三河湾沿岸の海岸。堤防の海側には砂浜が広がっており、海浜植物や巻貝、カニ類を観察できる。目の前には豊かな生態系を有する六条潟と三河湾の海が広がり、美しい夕日も眺められる。



D. 市街地周辺

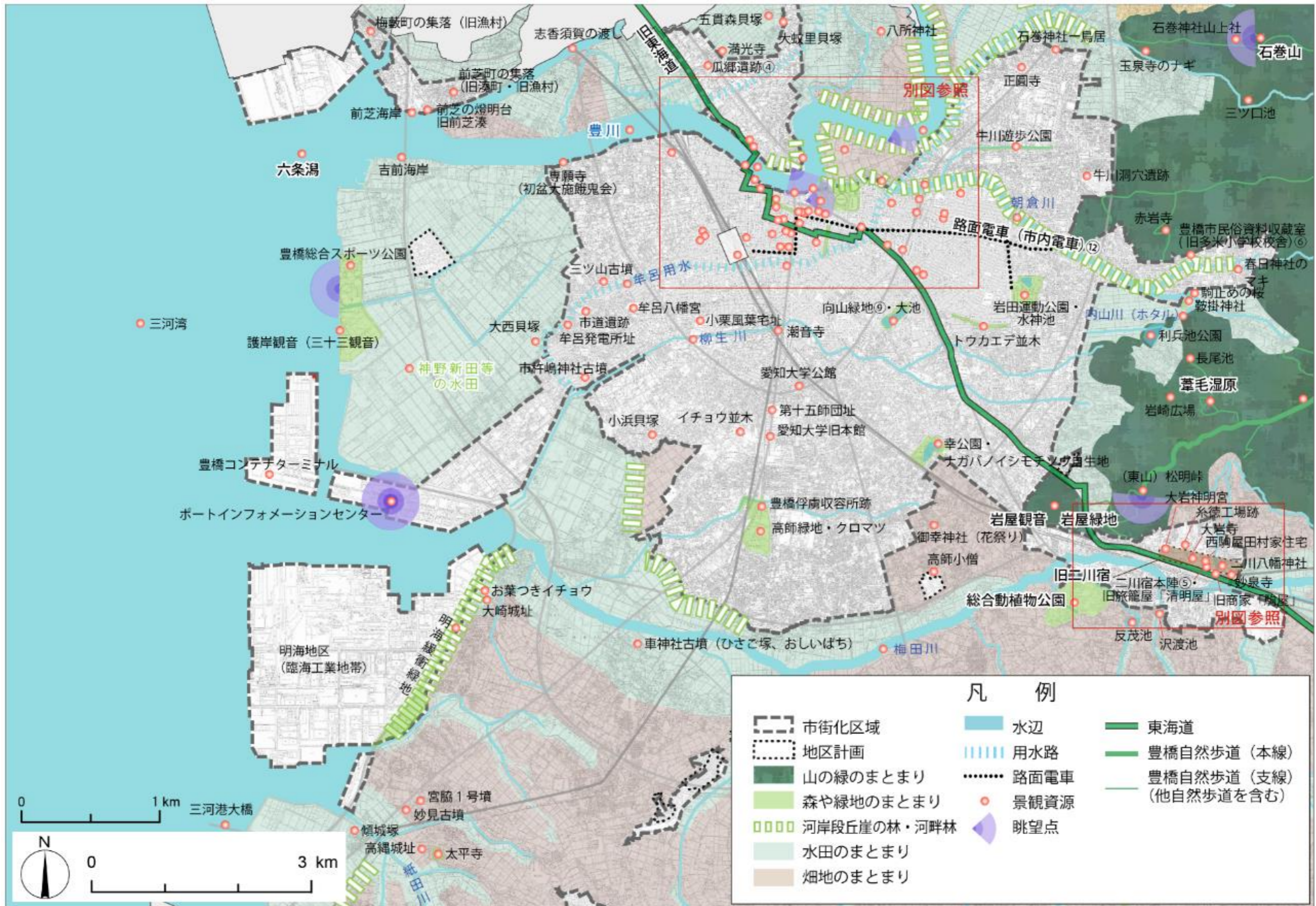
この地域は、中高層建築物が集積した豊橋駅周辺の商業業務地と、その周辺に広がる落ち着いた住宅地により形成されており、吉田城址や二川宿など、歴史の面影が色ごとく残る場もあります。市街地の周囲は、河岸段丘の斜面緑地や河畔林などによるグリーンベルトで縁どられています。

豊橋駅前からは、東部の住宅地に向けて路面電車が走り、本市固有の趣ある景観が見られます。また、地域全体には伝統行事のある社寺など、多くの歴史・文化の資源が点在するとともに、緑豊かな公園や街路樹がまちに潤いをもたらしています。

ここでは、豊橋駅周辺（D-1）と二川宿周辺（D-2）を後段に示し、前段にはそれ以外の範囲の景観資源を示します。



D 市街地周辺



あ

あいち だいがくきゅうほんかん
■ **愛知大学旧本館** 町畑町

陸軍第15師団司令部として明治41年（1908）に竣工した木造2階建ての建物で、明治末期の陸軍による兵営建築の手法をよく示しており、国の登録有形文化財になっている。コの字形の平面で、外壁に下見板を張り、装飾をあまり用いない簡素なつくりで、縦長の上下窓を均等に配置するなど標準化の傾向がみられる。



あいち だいがくこうかん
■ **愛知大学公館** 高師石塚町

明治45年（1912）に陸軍第十五師団長官舎として建てられた建物で、市の有形文化財に指定されている。洋館に和館が併設されており、洋館が公室、和館が私室として利用されていた。昭和21年（1946）愛知大学の開校後は、学長公舎、教職員宿舎となり、現在は愛知大学公館となっている。



あさくらかわ
■ **朝倉川**

弓張山地を源流とする一級河川で、住宅地を流れて豊橋公園の北側で豊川に合流している。上流部はNPOや市民、企業により植栽がされ、中流部は桜並木や親水空間が整備され、市民の暮らしに潤いをもたらしている。



い

いしまきじんじやいちのとりい
■ **石巻神社一ノ鳥居** 森岡町

石巻神社の鳥居で、石巻山の西側の少し離れた場所にある。かつては、霊峰石巻山の端正な姿が、鳥居を額縁として拝むことができた。現在は両側を道路に挟まれた細長い土地に、大きな白い鳥居が建っている。



いちみ いせき
■ **市道遺跡** 牟呂町

古代から近世までの長期間にわたって続いた遺跡で、8～9世紀ごろの渥美郡の役人をしていた豪族の館跡や豪族の氏寺とされる寺院跡と、12～14世紀ごろの中世の寺院跡が確認されている。現在は、住宅地となり当時の面影はない。



いわ た うんどうこうえん すいじんいけ
■ **岩田運動公園・水神池** 岩田町

市の東部にある水神池を中心とする公園で、池の周りには散歩道や親水空間が整備され、弓張山地を借景とした美しい眺めが得られる。公園内には、市民球場やテニスコート、ラグビー・サッカー兼用の球技場などのスポーツ施設があり、市民に親しまれている。



う

うしかわどうくつ いせき
■ **牛川洞窟遺跡** 牛川町

昭和32年(1957)に石灰岩の採掘中に人骨とされる化石骨が発見された場所。現在は採掘により遺跡は滅失している。最初に発見された人骨とされる骨は、フィッシャーと呼ばれる岩の裂け目の中から多数の動物骨とともに出土して約10万年前のものと想定された。その後、昭和34年にも同じ鉱山で化石骨が採集されている。なお、近年の研究により、人骨とされた骨は、動物骨であると意見が相次いで表明されている。



うしかわゆう ほ こうえん
■ **牛川遊歩公園** 西小鷹野他

幅約40m、長さ約1kmの細長い地区公園で、通称1キロ公園と呼ばれている。明治18年(1885)に歩兵第18聯隊の射撃練習場が建設された場所で、細長い跡地を利用して公園が整備された。細長い土地を周回するように並木が植えられ、緑陰の下を心地よく散策できる。



うりごう いせき
 ■ 瓜郷遺跡 瓜郷町

豊川下流域の沖積地に立地する弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大規模な集落遺跡。湿地で稲作を行うとともに、漁労や狩猟により暮らしていたことが分かっている。国の史跡に指定されており、川沿いの静かな公園内に竪穴建物が復元されている。



お

おお が さとかいづか
 ■ 大蚊里貝塚 大村町

縄文時代の貝塚で、素戔鳴神社一帯にある。標高約2.5mの自然堤防上に形成された、ヤマトシジミ主体の貝塚と考えられる。縄文土器のほか、土偶や石剣なども出土している。



か

かすがじんじやの まき
 ■ 春日神社のマキ 多米東町

春日神社のご神木で、高さ16.8m、幹周343cm、推定樹齢400年以上とされており、市の天然記念物に指定されている。他に2本の巨木もある。マキは中生代からある針葉樹で、海岸部に多く、防風林として利用される。



こ

こ はまかいづか
 ■ 小浜貝塚 小浜町

縄文時代前期～晩期の貝塚で、小浜神明社境内地とその周辺に分布している。ハマグリやマガキなどの貝塚で、縄文土器が出土しており、埋葬人骨も発見されている。



し

しょうえん じ
■ **正圓寺** 牛川町

寺の歴史は古く、伝説では古代まで遡るが、延文年間（1356～61）に嵩山正宗寺の和尚が再興・改宗した。文明年間（1469～87）には、戸田宗光によって莊円寺が建てられ、のち、江戸時代に正圓寺に改称したと伝えられる。平安時代末期から鎌倉初期の作とされる薬師如来坐像と地藏菩薩立像（市指定有形文化財）がある。



せ

せんがん じ
■ **専願寺** 馬見塚町

専願寺はもと専求庵といい、明治13年（1880）に専願寺と改称している。大施餓鬼会は、数百年の歴史を持ち、毎年7月31日の午後から翌8月1日にかけて夜を徹して行われる。初盆の家は宗派を問わず各地から訪れ、境内は参詣人でいっぱいになる。あの世に旅立った肉親に似た人が必ず見つかるといわれている。



た

だいじゅうご しだんあと
■ **第十五師団址** 町畑町

明治40年（1907）、陸軍省が豊橋に第15師団を置くことを決定し、現在の愛知大学や高師緑地公園を中心とする約50万坪の敷地に多くの施設がつくられた。現在、これらの敷地は、愛知大学、時習館高校、豊橋工業高校等の学校や公共施設として利用されている。



たかしりよくち くろまつ
■ **高師緑地・クロマツ** 高師町

かつて高師原陸軍演習場として使われていた場所で、昭和42年（1967）に約24.2haの公園として開設された。緑豊かな広大な園内は、散歩やジョギング、乗馬など多目的に利用されている。緑地全体にクロマツが生えており、戦時中に松脂を採集した後を見ることができる。



ち

■ 潮音寺 ちょうおんじ 小池町

創建は不明であるが、塩満山潮音寺由来記によると、行基作の観音像がこの地の岸に漂着し、これを祀ったのが起源とされている。後に、伽藍を現在の場所に移したが、昭和20年(1945)の豊橋空襲で山門を残して全伽藍を焼失した。この山門は木彫で、市内では数少ない仁王像が安置されている。

■ トウカエデ並木 とうかえでなみき

トウカエデは、江戸時代初期に中国から渡来し、日本各地に植栽された落葉高木で、春には瑞々しく芽吹き、夏には緑陰をもたらし、秋には黄色や紅色に色づく。市道伝馬町・岩崎町5号線のトウカエデ並木は、東部丘陵に向かって木々が繋がり、秋の紅葉は特に美しい。



ま

■ 満光寺 まんこうじ 瓜郷町

創建は、大永5年(1525)と伝えられ、室町將軍より寺領の寄進を受けていたとされている。天文8年(1539)に大津波ですべてを流出したが、慶長3年(1598)に再興された。銅鐘は、まれにみる名鐘で、市の有形文化財に指定されている。



み

■ 三ツ山古墳 みつやまこふん 牟呂町

豊川中流域が見渡せる台地上に、前方部を北西に向けて造られた前方後円墳である。全長34m、前方部は幅16m、高さ3m、後円部は直径18m、高さ3.5mある。円筒埴輪が出土している。現在、古墳は、墳丘を利用した児童公園になっている。



みゆきこうえん ながばのいしもちそうじせいち
■ **幸公園・ナガバノイシモチソウ自生地** 佐藤町

幸公園は、区画整理事業に伴い整備された公園で、農業用ため池の長三池を中心に整備された。池の中央には幸福橋が架かり、周辺には遊歩道が整備され、市民の憩いの空間になっている。公園内の一角には、食虫植物ナガバノイシモチソウが自生する湿地があり、県の天然記念物に指定されている。



みんぞくしりょうしゅうぞうしつ きゅうためしょうがっこうこうしゃ
■ **民俗資料収蔵室（旧多米小学校校舎）** 多米町

市内に残る唯一の木造瓦葺の校舎で、昭和19年（1944）建築の本棟と昭和29年（1954）建築の西棟がある。国の登録有形文化財になっており、敷地内には二宮金次郎の像もあり、山を背景にした落ち着いた校舎は、昭和の時代の懐かしい景観を保っている。



む

むかいやまりよくち おおいけ
■ **向山緑地・大池** 向山大池町他

大池は、江戸時代、吉田城の外堀に水を流す目的でつくられた池で、現在は池を中心に緑地が整備されている。池の周辺は緑豊かな散策路になっており、市の花「ツツジ」が約1万本植えられている。冬になると池には多くの渡り鳥が飛来する。また、西側には、梅林園やさくら広場もあり、四季を通じて自然を感じられ、市民の憩いの場になっている。



む ろ はちまんぐう
 ■ 牟呂八幡宮 牟呂町

文武天皇元年（697）の創建といわれている。貞応元年（1222）鎌倉将軍の命により、鎌倉鶴岡八幡宮を手本にして三方に大門・三池をめぐらし、市杵島社、若宮八幡社、武内社などを勧請した。昭和20年（1945）6月の空襲により社殿が被災したが、同24年（1949）に再建した。



む ろ はつでんしょあと
 ■ 牟呂発電所址 牟呂大西町

豊橋電燈株式会社が、明治29年（1896）に設けた発電所で、当時、通水したばかりの牟呂用水を水源とした。牟呂用水に樋門を設け、せき止めた水を導水路で下流に誘導して、落下地点に井戸を掘り落差を大きくして発電機を回転させたといわれ、火力発電を併設していた。



む ろ ようすい
 ■ 牟呂用水

豊川の牟呂松原頭首工（新城市）から取水し、市街地を抜け、神野新田に至る農業用水路。水路沿いは比較的緑が多く、市街地に緑の潤いをもたらしている。中心市街地では、用水上に約800mにわたって水上ビルが建設されている。



や

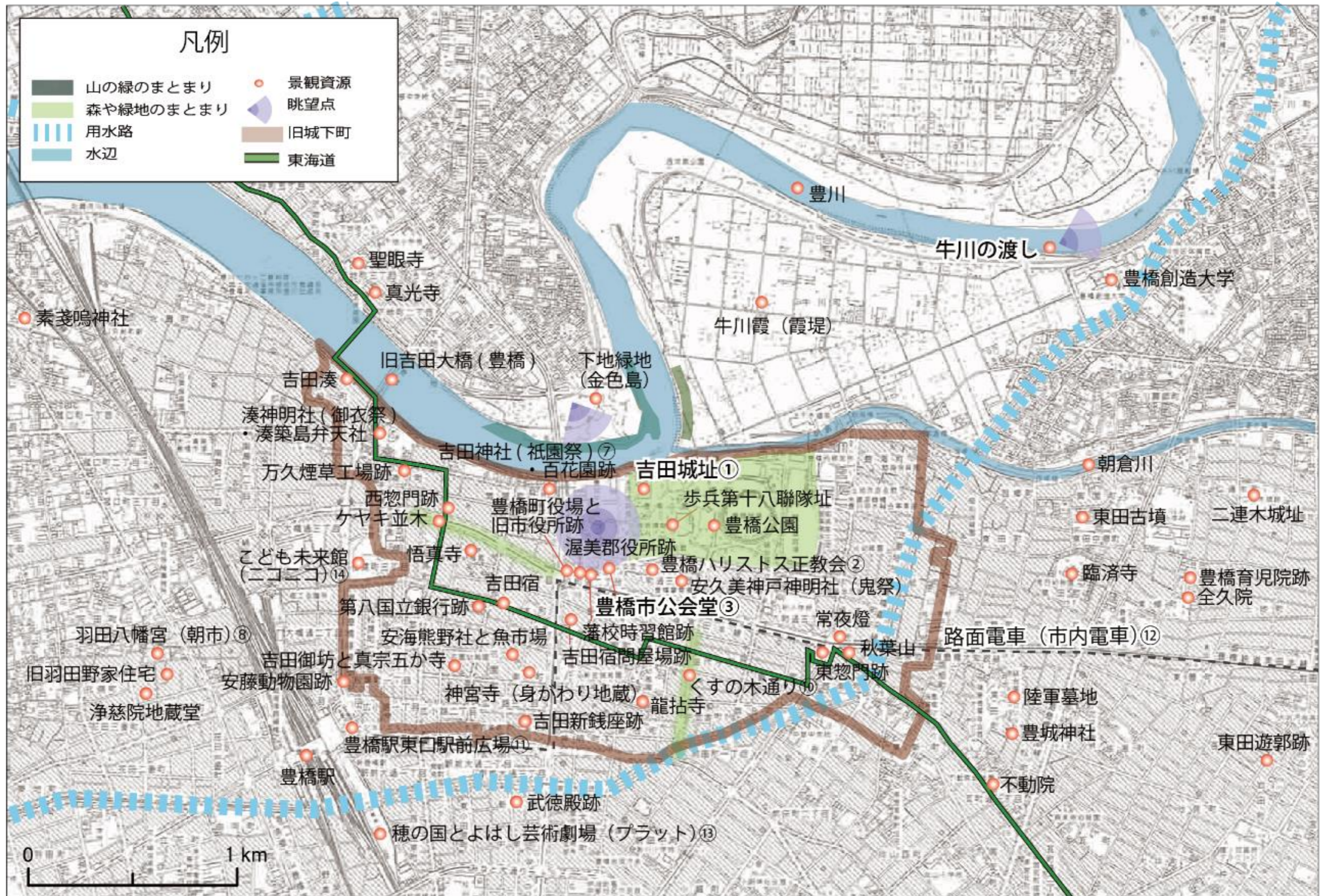
や ぎゅうがわ
 ■ 柳生川

市街地を西に向かって流れ、三河湾に注ぐ二級河川で、水車橋から東小池橋の間は桜並木や石積み護岸により親水空間が整備されている。下流部は、昭和11年（1936）に完工した柳生川運河で三河港の区域に入っている。



D-1. 豊橋駅周辺





あ

あ く み かん べ しんめいしや おにまつり
■ **安久美神戸神明社（鬼祭）** 八町通三丁目

天下の奇祭「鬼祭」が行われる神社。本殿や拝殿などは、国の登録有形文化財になっている。毎年2月10、11日に行われる「鬼祭」は、千年余りの歴史を持ち、国の重要無形民俗文化財に指定されている。赤鬼と天狗の「からかい」では、敗れた赤鬼が境内をでて町内をかけ回りタンキリ飴を振りまく。



あずまだ こふん
■ **東田古墳** 御園町

5世紀頃に造られた前方後円墳で、全長40m、前方部は幅16m・高さ4m、後円部は直径20m・高さ3mある。この地方を支配していた豪族の墓であると考えられている。現在は、東田神明社の西側にこんもりとした小さな森を形成しており、墳丘上に御嶽社が建っている。



お

おしだ ごぼう しんしゅうご かでら
■ **吉田御坊と真宗五ヶ寺** 花園町他

吉田御坊とは東本願寺の豊橋別院のことで、真宗五ヶ寺とは、蓮泉寺・応通寺・仁長寺・小琳寺・浄円寺の真宗派の五ヶ寺をさしている俗名である。真宗五ヶ寺は、吉田御坊の参道に面して建ち並んでいたといわれ、吉田御坊の住職を務めることが主な役割であった。現在は、浄円寺が大村町へ移転したため、四ヶ寺がこの地に残り、浄土真宗をおこした親鸞の徳をたたえる報恩講が交代で行われている。



き

きゅうは だ の けいじゅうたく
■ **旧羽田野家住宅** 花田町

図書館の先駆とされる羽田八幡宮文庫を主宰した神主の住宅で、主屋、蔵、門が国の登録有形文化財になっている。主屋は、江戸中期の建物で、羽田八幡宮社務所離れになっている。主屋に繋がる蔵は、羽田八幡宮文庫の書庫として使われていた。



きゅうよし だ おおはし
■ 旧吉田大橋 船町

旧東海道の豊川に架かっていた橋で、天正 18 年 (1590)、吉田大橋として架設され、その後、幾度も改築され、「豊橋」とも称されていた。明治 12 年 (1879) の改築時に正式に「豊橋」に改称された。大正 5 年 (1916) には、3 連アーチ式鉄橋が完成した。現在の「豊橋」の下流 70m のところに旧吉田大橋跡の碑が立つ。



<

きどお くすの きなみき
■ くすの木通り (クスノキ並木) 八町通他

シンボルロードに位置付けされている通りで、道の中央に市の木「くすのき」の大木が 35 本植えられており、緑豊かな景観を形成している。通りは無電柱化と道路景観整備が行われ、沿道を含めてまちづくり景観形成地区に指定されている。クスノキ並木は、とよはしの巨木・名木 100 選に選ばれている。



け

け や きなみき こくどう 23 ごと
■ ケヤキ並木 (国道23号) 八町通他

国道 23 号の起点部の中央分離帯に植えられたケヤキ並木で、42 本の大木が市街地に潤いをもたらしている。推定樹齢は 50 年以上とされ、とよはしの巨木・名木 100 選に選ばれている。



こ

ごしんじ
■ 悟真寺 関屋町

江戸時代、龍拈寺・神宮寺と並んで吉田三か寺に数えられた浄土宗の名刹。創立は貞治 5 年 (1366) で、開山は善忠である。永正 2 年 (1505)、牧野古白が今橋城を築いた時、現在地に移転した。江戸時代には、家康・秀忠・家光などの歴代将軍や朝鮮使節の宿泊所としても利用された。昭和 20 年 (1945) の豊橋空襲によって焼失し、現在は、鉄筋コンクリート造の本堂と庫裏などがある。



■ みらいかん **こども未来館（ここここ）** 松葉町

未来を担う子供達や様々な世代の市民が、遊びや体験を通して交流できる拠点で、平成 20 年に開館した。屋外には芝生広場が整備され、中心市街地の都市空間に賑わいと潤いある景観を創出している。



し

■ しょうげんじ **聖眼寺** 下地町

豊川に架かる豊橋を渡り、旧東海道を川に沿って西に進むと右手に山門が見える。平安時代のはじめ、吉祥山の麓に天台宗寺院として開山したが、浄土真宗に改宗し、下地郷（元下地）へ移る。さらに東海道の改修により慶長 9 年（1604）現在地へ移転した。古来、三河高田三か寺の一つといわれ、幕府や朝廷から厚遇を受けていた。



■ しょうじいんじぞうどう **浄慈院地蔵堂** 花田町

浄慈院は、元は浄土・律・真言・天台の四宗兼学の寺風をなしていたが、現在は、浄土宗の寺院である。開山当時から寺子屋を開いていた。地蔵堂は、享保 12 年（1727）の竣工で、市の有形文化財に指定されている。正面 3 間、側面 2 間の建物で、緑に囲まれた境内に静かに建っている。



■ しょうやとう **常夜燈** 八町通

吉田宿の東惣門前に文化 2 年（1805）に建てられた常夜燈で、市内では最大のもので高さ約 5 m ある。地震により倒壊し、放置されたり、別の場所に移築されたりしていたが、平成 13 年（2001）に、本来の場所に近い現在地に移転整備された。市の有形民俗文化財に指定されている。



■ じんぐうじ みが じぞう
神宮寺（身代わり地蔵） 魚町

比叡山延暦寺の末寺で、天台宗の名刹である。昭和20年（1945）の豊橋空襲で焼失するまで、護摩堂・本堂・山門などの伽藍はおおむね維持されていた。現在は、本堂と朱塗りの地蔵堂がある。地蔵堂には、民話「身がわり地蔵」の地蔵があり、現在でも信仰をあつめている。



■ しんこうじ
真光寺 下地町

聖眼寺の東隣にあり、もともとは聖眼寺の塔頭で、真光坊と呼ばれていたが、創立年代は不明である。明治9年（1876）に専修寺直属の末寺となり、昭和17年（1942）に寺号を真光寺と改めた。本尊の阿弥陀如来立像は、室町時代作と推定され、市の有形文化財に指定されている。



す

■ す さのおんじや の だちょう
素蓋鳴神社（野田町） 野田町

応仁元年（1467）、祇園精舎の守護神である牛頭天王を鎮守の神に迎えて祭祀したのが創始とされる。牛頭天王は、素戔鳴尊と結び付けて信仰されたが、明治初期の神仏分離より、素戔鳴神社と改めた。例祭には、小学生による稚児神楽が神前で奉納される。



せ

■ ぜんきゅういん
全久院 東郷町

二連木城主戸田憲光が、亡父宗光の追善供養の為に城の西方に建てた寺である。創立年次は諸説あるが、通常永正11年（1514）といわれる。戸田家が松本へ移ったのちも戸田家先祖代々の墓所として、明治に戸田家が神道に改宗するまで篤く保護された。その後は、当時の住職は寺を一般の人々に開放し、以後、人々の篤い信仰を受けている。



とよはしえき
 ■ 豊橋駅 花田町

明治 21 年（1888）、東海道線の浜松～大府間の開通に伴い開業した。昭和 20 年（1945）の豊橋空襲で駅舎は全焼したが、昭和 25 年（1950）に全国初の民衆駅が開業した。昭和 39 年（1964）には、西口に東海道新幹線の橋上駅が開業。その後、昭和 45 年（1970）にステーションビルが建築された。平成 8 年には、豊橋駅総合開発事業により橋上駅舎やステーションビルの増改築、東口駅前広場の整備が行われ、現在の姿となった。



とよはしえきひがしぐちえきまえひろば
 ■ 豊橋駅 東口駅前広場 花田町

豊橋駅東口の交通広場で、都市の顔にふさわしいシンボリックな楕円形のペDESTリアンデッキが整備されている。デッキ上は緑化され、多目的に活用できる円形広場が設けられ、市民や来訪者の憩いの場になっている。広場内には、路面電車が乗り入れている。



とよはしこうえん
 ■ 豊橋公園 今橋町

吉田城址のある公園で昭和 24 年（1949）に開設された。21.6ha の敷地には、美術博物館などの文化施設、野球場や陸上競技場などのスポーツ施設がある。明治以後は旧日本軍の部隊がおかれた事もあり、一部その名残も残っている。豊川に接しており、緑が深いため、四季を通して様々な野鳥も見られ、市民の憩いの場になっている。



とよはししこうかいどう
 ■ 豊橋市公会堂 八町通二丁目

ロマネスク様式を基調とした鉄筋コンクリート造の近代建築で、昭和 6 年（1931）に竣工し、国の登録有形文化財になっている。路面電車が走る国道 1 号沿いに建っており、風格ある雄姿は、豊橋のシンボリックな建物となっている。



とよはし は り す と す せいきょうかい
■ 豊橋ハリストス正教会 八町通三丁目

明治8年(1875)から三河地方への正教会の布教がはじまり、大正2年(1913)に建築された。木造下見板張り銅板葺きの美しい姿の教会で、豊橋公園に隣接する静かな環境に建っており、国の重要文化財に指定されている。



に

にれんぎじょうし
■ 二連木城址 二連木町

二連木城は、田原方面で勢力を誇った戸田氏の城の一つである。城址は、大口公園となっている本丸址、老人福祉センターのある二の丸址、本丸周囲に空堀のあとと思われる段違いの地形が残っているが、付近一帯は住宅地などに変わっている。



は

はだ はちまんぐう
■ 羽田八幡宮 花田町

社伝によると白鳳元年(672)の創立と伝えられる。毎年10月に、豊橋の三大祭の一つと言われる羽田祭が行われる。例祭は、乙女の舞・浦安の舞が奉納され、花神輿・獅子舞が彩を添える。宵祭りには、手筒・大筒花火が揚げられる。また、毎月1と5のつく日には、境内で朝市が行われる。



ひ

ひがしろうもんあと
■ 東惣門跡 八町通五丁目

東惣門は、東海道吉田宿の東の出入口で、江戸時代には東海道にまたがって南向きに建てられていた。門の傍らには十二畳の上番所、八畳の下番所などがあった。惣門は、午前6時から午後10時まで開けられており、それ以外の時間は一般の通行が禁止されていた。現在は、門のあった辺りに、西惣門とともにモニュメントが設置されている。



ひゃっか えんあと
 ■ 百花園跡 関屋町

豊川を臨む場所に、四季折々に風情のある花畑と、その一面に建つ料亭からなっていた。開園、廃止ともに不明であるが、明治中期頃まで新聞等の記録に多く現れている。豊橋を訪れた知名士を接待する場として使われ、付近には商家の別宅や風流人の居宅が多くあり、文化的雰囲気があった。現在は、吉田神社の横にある吉田会館の前に標柱があるのみである。



ふ

ふ どういん
 ■ 不動院 瓦町通一丁目

寺伝によれば、不動院が建てられたのは久寿元年（1154）である。平安時代末期、京の都の貴族が二運木にお堂を建て不動尊を祀った。その後、瓦町が開かれ、城主小笠原家より土地の寄進をうけ現在地に移った。現在、鉄筋コンクリート造 2 階建ての本堂には、弘法大師と不動尊を祀り、東海道に面していた山門も本堂前に移されている。



ほ

ほ くに げいじゅつけきじょう ぷらっと
 ■ 穂の国とよはし芸術劇場（プラット） 西小田原町

東三河地域における芸術文化の創造発信及び交流の拠点として、豊橋駅の南口に整備され、平成 25 年に開館した。舞台芸術を中心とした施設で、中心市街地の都市空間に、賑わいある新しい景観を創出している。



ほ へいだいじゅうはちれんたいあと
 ■ 歩兵第十八聯隊跡 今橋町（豊橋公園）

歩兵第十八聯隊は、明治 17 年（1884）に編成され、明治 19 年（1886）に現在の豊橋公園に位置する豊橋分営に移駐した。日清戦争から太平洋戦争まで多くの作戦に動員された。現在は、豊橋公園入口に営門と哨舎が残り、公園内に歩兵第十八聯隊跡の碑が建立されている。



み

みなとしんめんしゃ おん そまつり みなとちくしまべんてんしゃ
■ 湊神明社（御衣祭）・湊築島弁天社 湊町

湊神明社の創建は7世紀頃とされる。かつてこのあたりは吉田御園といい、伊勢神宮の荘園であった。御衣祭は、三ヶ日の初衣神社で織った絹糸の布を湊神明社まで運び、吉田湊から伊勢神宮に奉獻する儀式で、元和年間（1615～24）に始まり、吉田城下最大の祭りであった。湊築島弁天社は、湊町公園の池の中の島に建っており、入母屋造本瓦葺の三間堂で、国の登録有形文化財になっている。



や

やすみくまのしゃ うおいちば
■ 安海熊野社と魚市場 魚町

安海熊野社は、社伝によると保延2年（1136）鳥羽上皇の命により快円が建立したといわれる。古くは安海熊野権現社といい、札木町にあったが、吉田城地拡張に伴い現在の場所に移転した。吉田の魚市は戦国時代末期に始まるとされ、神社に対する魚売買の特権が保障され、その保障は、魚商人の特権に対する保障となり、魚町などを中心に魚の取引が行われた。魚市場は昭和41年に下五井町に移転した。



よ

よしだしゆく
■ 吉田宿 札木町他

吉田宿は、東海道が慶長6年（1601）に設定された当初からの宿駅で、江戸日本橋から34番目に位置していた。宿は、東海道に面した表町12町と裏町12町の計24町で構成されていた。宿場の中心は札木町で、問屋場・本陣・脇本陣などの主要施設が集中し、大手門前の辻には高札場があった。現在は、古いまち並みは残っておらず、旧東海道沿いに本陣跡の碑などが置かれている。



よしだしゆくといや ぼあと
■ 吉田宿問屋場跡 札木町

問屋場は、道中奉行所支配のもと各宿駅に置かれ、主な任務は人馬継立を円滑に行い、旅客貨物等を目的地に送ることであった。人馬を使用するのは、御朱印または御証文によって使用を許可された公用旅行者が優先で、しかも無料であった。これらの人馬の差配は、問屋場役人によって行われた。現在は、旧東海道沿いに、問屋場跡の碑が置かれている。



よしだじょうし
 ■ 吉田城址 今橋町

永正 2 年（1505）、牧野古白が今橋城を築城し、その後、城をめぐる争奪戦が続き、その中で吉田城に改名された。天正 18 年（1590）、池田輝政が城主となり、広大な城に整備拡張された。昭和 29 年（1954）の豊橋産業文化大博覧会に際して、鉄筋コンクリート造の鉄櫓が再建されている。



よしだじんじゃ とよはしぎおんまつり
 ■ 吉田神社（豊橋祇園祭） 関屋町

古くは天王社と称し、多くの武将たちから崇拝を受け、特に源頼朝が深く崇拝した。毎年 7 月に祇園祭が行われ、手筒花火の奉納や、豊川河畔での打上花火大会が行われる。手筒花火は、吉田神社が発祥の地と言われている。



よしだしんげにざあと
 ■ 吉田新銭座跡 広小路三丁目

江戸時代に「寛永通宝」を鑄造した場所で、白山比咩神社の境内の一角にある。寛永 13 年（1636）、幕府は新銭を鑄ることを決めて、江戸と近江の坂本の二か所で寛永通宝を鑄造したが、これだけでは不足するため、寛永 14 年に、諸藩のうち八か所を選んで新銭の鑄造を拡大した。吉田新銭座はそのうちのひとつである。



よしだみなと
 ■ 吉田湊 船町

吉田湊が開かれたのは近世初頭であり、その由来は、慶長 5 年（1600）関ヶ原合戦に際し、船町の人々が数十隻の持ち船を出して協力した功労を池田輝政が認めたことによる。満潮時には三河湾から帆船が入港できた上、東海道の道筋にあたり、伊勢参宮などの旅人でにぎわった。また、奥三河まで川船が通じ、物資はここで廻船に積み替えられて江戸や全国各地へ運ばれた。



り

■ 龍拈寺 (山門) りゅうねんじ さんもん 新吉町

創立当初の詳細は不明であるが、初めは無名の小庵であった。江戸時代には、吉田三か寺に数えられる名刹となり、三河地方の曹洞宗屈指の寺院であった。吉田城主を大檀那として、末寺三六、塔頭四院を擁する大寺院となった。山門は、戦火を免れた当寺唯一の江戸時代の遺構で、市の有形文化財に指定されている。



■ 臨済寺 りんざいじ 東田町

江戸時代初期、吉田藩主小笠原忠知が豊後国（大分県）にいたとき、宗玄寺を建てたのが始まりで、忠知が吉田へ国替えするとき、宗玄寺も吉田に移された。寛文4年（1664）、現在の位置に移され、萬年山臨済寺に改められた。しかし、明治初期の廃仏毀釈運動や昭和20年の豊橋空襲等により山門と稲荷堂のみが残った。その後、意欲的な復旧が継続され、今日に至っている。



ろ

■ 路面電車 ろめんてんしゃ

大正14年（1925）に開通し、戦災やモータリゼーションの進展など、幾多の困難な時代を経たが、現在も市民に愛されて走り続け、豊橋のシンボリック的存在になっている。中心市街地内はセンターポール化され、駅前大通りの一部は軌道緑化されている。平成20年には、全面低床車両「ほつトラム」が導入された。



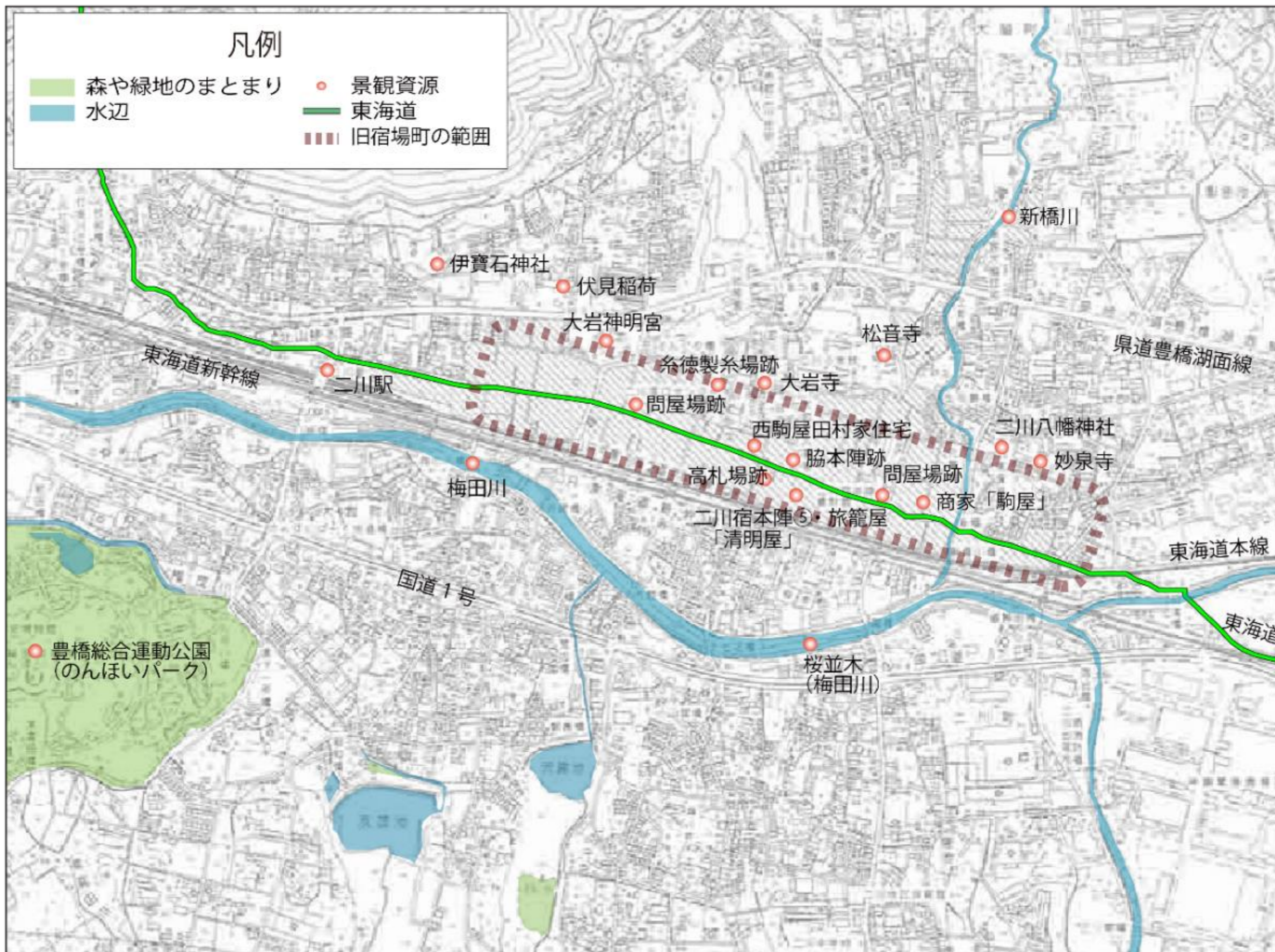
D-2. 二川宿周辺



二川宿の商家「駒屋」横の瀬古道



二川八幡神社の例祭の山車



い

■ 糸徳製糸場跡 いととくせい しじょうあと 大岩町

糸徳製糸場は、小淵志ち（1847～1929）が二川に設立した製糸工場である。志ちは、玉糸（玉繭という二匹の蚕がつくった繭から取り出した糸）による製糸に成功し、明治二十年半ばには、糸徳製糸場は玉糸専門の工場になった。その後、二川・豊橋は「玉糸の町」として知られるようになった。



お

■ 大岩神明宮 おおいわしんめいぐう 大岩町

文武2年（698）、岩屋山南麓に勧請したことに起源を持ち、大岩町の氏神となっている。寛延4年（1751）の燈籠、文化4年（1807）の秋葉山常夜燈、文政6年（1823）の手水鉢がある。毎年10月には例祭が行われ、御神楽奉納、子供神輿などのほか、東三河の伝統である手筒花火奉納も行われる。



さ

■ 桜並木（梅田川） さくらなみき うめだかわ 二川町他

静岡県境から三河湾に向かって二級河川の梅田川が流れている。旧東海道二川宿や二川駅の南側辺りでは、川の兩岸に桜並木が続いている。春になると淡いピンク色の花が咲き誇り、水辺の菜の花とともに生き生きとした景観を見せてくれる。



し

■ 松音寺 しょうおんじ 二川町

二川宿の山側にある曹洞宗の寺で、創立は、康永・貞和年間（1342～50）と伝えられており、当時の宗派は不明である。明暦年間（1655～58）に遠州白須賀の蔵法寺の末寺となった。江戸時代には、大通行の際の休泊所や、本陣からの避難所に指定されていた。旧街道の東の枡形から寺に向かって瀬古道がつながっている。



しょうか こまや
■ 商家「駒屋」 二川町

江戸時代に二川宿で商家を営むかたわら、問屋役や名主などを務めた田村家の遺構である。江戸時代から大正時代に建てられた8棟の建物からなり、宿場町の商家の一般的な形式を残していることから、市の有形文化財に指定されている。平成24年から3か年かけて改修復元工事が行われ、二川宿の歴史と文化の継承発展の場、地域の交流や活動の場として活用するため、広く公開されている。



た

だいがんじ
■ 大岩寺 大岩町

もとは岩屋山麓にあって、岩屋観音に奉仕した六坊の一つと伝えられ、元和8年(1622)、遠州浜名郡宿芦寺の通山和尚により再興され、曹洞宗に改宗し、のち正保元年(1644)現在地に移転した。岩屋観音に寄進された絵馬・黄金灯籠等の文化財を所蔵している。



に

にしこまや たむらけ
■ 西駒屋田村家 二川町

二川宿本陣の正面にある明治時代に建築された町家で、醸造業を営んでいた。街道に面して建ち、床上部正面に出格子をたて、上下階とも軒を出桁造とし、宿場町の風情を醸し出している。主屋と土蔵が国の登録有形文化財になっている。



は

はたごや せめいや
■ 旅籠屋「清明屋」 二川町

江戸時代後期から明治期まで二川宿で旅籠屋を営んだ倉橋家の遺構で、改修復元工事により主屋・繋ぎの間・奥座敷等を江戸時代の姿に復原し、一般庶民の宿であった建物を公開している。市の有形文化財に指定されている。



ふしみいなり
 ■ 伏見稲荷 大岩町

明治 43 年（1910）に京都伏見稲荷大社より分霊を奉載したことに由来する。境内は山の斜面に沿ってあり、森の中に建ち並ぶ多数の赤い鳥居をくぐりながら巡礼できる。また、境内にある御衣黄桜は、春になると、名の由来になっているような、平安時代の公家装束を連想させる淡緑色の美しい花を咲かせる。



ふたがわしゆく
 ■ 二川宿 二川町

江戸日本橋側から数えて 33 番目の宿場町で、慶長 6 年（1601）、徳川家康が東海道を宿場を設置した当初からの宿といわれている。当初は、離れていた二川村と大岩村の二村で一宿分の役目をはたしていたが、正保元年（1644）に両村が現在地に移転し、二川と加宿大岩からなる一続きの宿となった。比較的小規模な宿場町で、まち並みの長さは、12 町 16 間（約 1,340m）であった。戦災から免れ、当時のまち割りや本陣などの歴史的建築物が今でも残っている。



ふたがわしゆくほんじん
 ■ 二川宿本陣 二川町

文化 4 年（1807）から明治 8 年まで本陣職を勤めた馬場家の遺構で、主屋・玄関棟・書院棟・土蔵等を江戸時代の姿に復元し、大名や公家など貴人の宿舎であった建物を一般公開している。市の史跡に指定されており、江戸時代の旅に関する資料を展示する資料館を併設している。隣接して市の有形文化財に指定されている旅籠屋「清明屋」があり、併せて見学できる。



ふたがわはちまんじんじゃ

■ **二川八幡神社** 二川町

永仁3年(1295)、鎌倉の鶴岡八幡宮から勧請したのが創立と伝えられており、二川の氏神である。毎年10月の例祭では、江戸時代の末期から続いているといわれる神輿渡御がおこなわれ、御神体を載せた御神輿が多数の従者と三台の山車を従えて町内に繰り出す。市内で山車が出るお祭りとしては、最も歴史あるものと言われている。境内には、街道の東の枡形に文化6年(1809)に建立されたといわれる秋葉山常夜灯がある。



み

みょうせんじ

■ **妙泉寺** 二川町

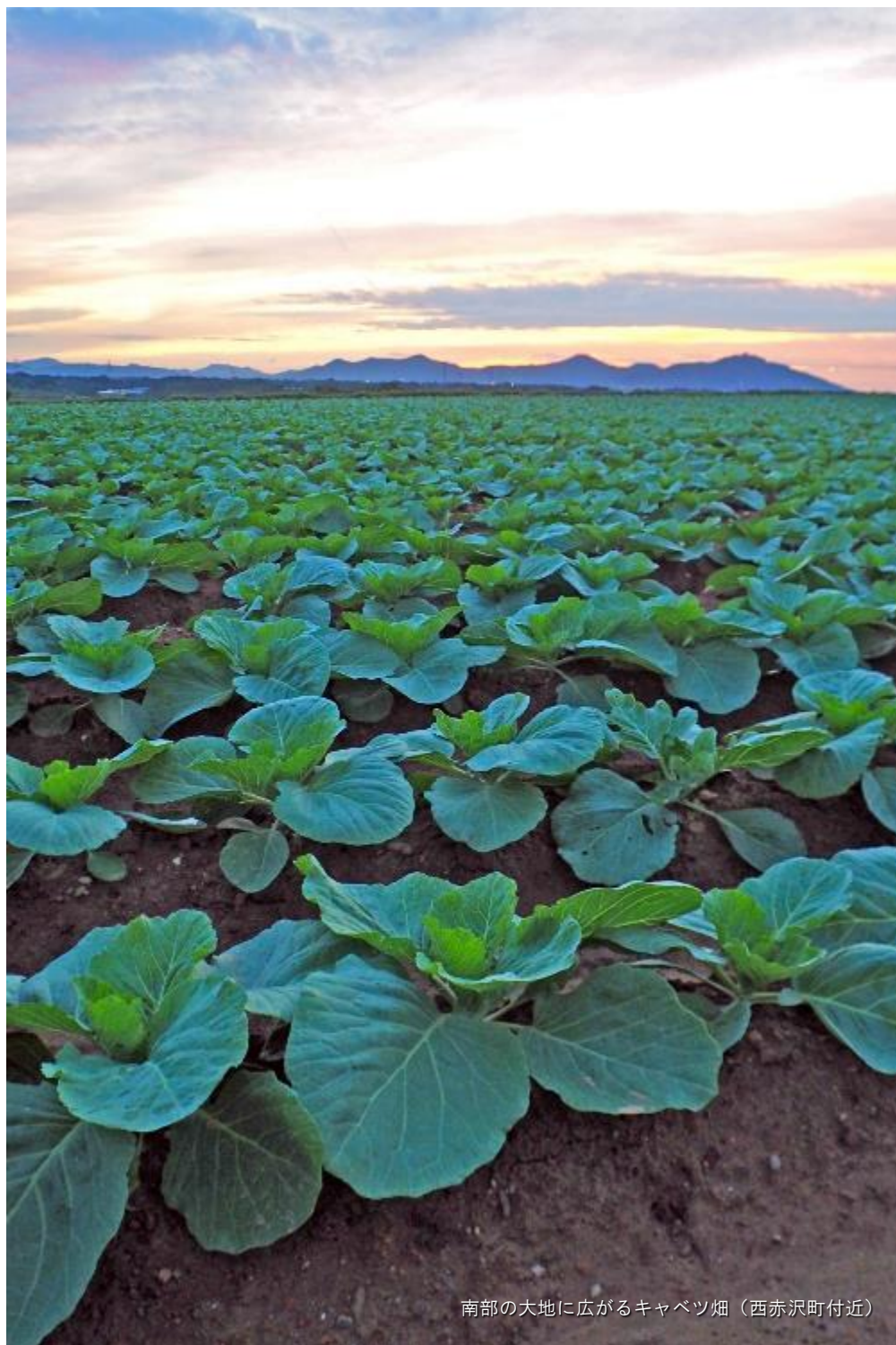
身延山久遠寺第五世の日台上人が、貞和年間(1345~50)に、現在地より東北に小庵を建てて教蔵庵と名付けたのがはじまりである。その後、信竜山妙泉寺と改称し、身延山から吉見(湖西市)の妙立寺の末寺となった。さらに万治3年(1660)、二川の現在地に移転し、延竜山妙泉寺と改めた。境内には、松尾芭蕉の句碑「紫陽花塚」がある。



E. 南部田園周辺

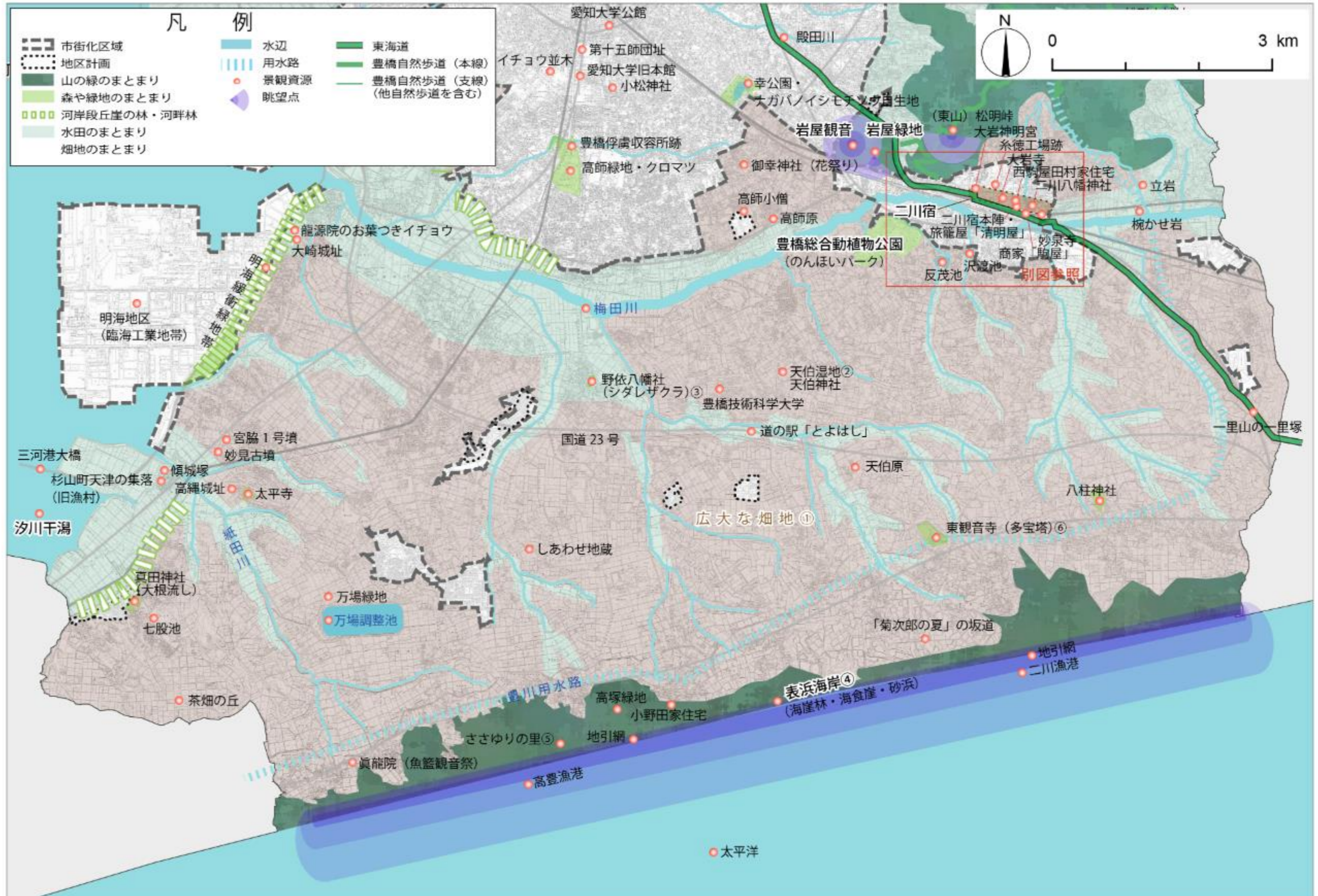
この地域は、ゆるやかな起伏のある大地にパッチワークのように広がるキャベツ畑などの田園により形成されています。

田園地帯には、集落や社寺が点在し、鎮守の森などの平地林が田園の背景になっています。また、シダレザクラのある野依八幡社や天伯湿地などの景観資源も見られます。



南部の大地に広がるキャベツ畑（西赤沢町付近）

E 南部田園周辺 ・ F 表浜沿岸周辺



い

■ いちりやま いちりづか 一里山の一里塚 東細谷町

一里塚は、江戸時代に東海道に設けられた塚で、江戸日本橋を起点に一里（約 3.9 km）ごとに土を盛り、マツやエノキを植えて築かれた。現在の一里山の一里塚は、国道 1 号に面して、雑木で覆われたこんもりとした塚が残っており、前面には秋葉社と地藏尊の祠がある。昭和 50 年に市の史跡に指定され保存されている。



う

■ うめだかわ 梅田川

本市の南部地域を東西に流れる二級河川で、船渡町付近で三河湾に注いでいる。河口付近は、三河湾の潮の干満の影響を受ける汽水域で、干潮時には川の両岸に干潟が現れる。国道 259 号線の植田橋より上流部にはヨシ原が広がっており、二川宿の南辺りには両岸に桜並木がある。



お

■ おおさきじょうし 大崎城址 船渡町

大崎城は、戦国時代に、牧野氏と今橋城の争奪を繰り返していた戸田氏が、田原に逃れた後に築いた城である。城址は、龍源院の北東にあたり、現在も、曲輪、堀、土塁などの遺構が確認できる。特に堀は、深さが約 8m あり、吉田城の本丸周囲の堀に匹敵する。



<

■ くるまじんじゃ こふん 車神社古墳 植田町

古墳時代後期の前方後円墳で、梅田川下流域を支配した豪族の墓であると考えられている。後円部上に車神社の社殿があるため正確な規模は分からないが、現状で全長約 33m、後円部の径約 17m、前方部の長さ約 16m である。古墳と神社との直接の関係はなく、古墳であることを知らずに神社が建てられたといわれている。



こ

■ 広大な畑地 こうだい はたち

豊橋市の南部には、ゆるやかな起伏のある大地に、キャベツ畑などの田園が伸びやかに広がっている。豊川用水の豊かな水と温暖な気候に恵まれ、本市は全国トップクラスの農業産出額を誇る産地となっており、南部の農地は、その基盤となっている。



さ

■ 真田神社（大根流し） さなだ じんじや だいこんなが 杉山町

杉山町の住宅地と水田地帯の間にある神社で、毎年12月に行われる「真田祭」は、喘息などの難病が完治するといわれており、多くの人が集まる。祭りは、江戸時代、喘息に悩まされていた男が、真田神社の前を流れる川に「真田幸村様行き」と書いた大根を流すと喘息が完治した、という伝説が始まりといわれている。かつては、大根を流していたが、今は大根を描いた板を流すことになっている。



■ 沢渡池 さわたりいけ 大岩町

大岩地域の住宅地にある農業用のため池で、池の中には浅瀬があり、ヨシなどが生えている。冬にはカモ類をはじめとした水辺の鳥類が集まる。隣に反茂池があり、「反茂池と沢渡池」の民話がある。昔、遠くからやってきた大男が、一服するために腰をおろしたところに、大きな尻跡がふたつ並んで窪んでつき、雨水が溜ってふたつの池になった、といわれている。



し

■ しあわせ地蔵 しぞう 東大清水町

ふるさとの民話にもなっているお地蔵さまで、田園地帯のなかの道端に小さな祠がある。畑仕事のおばあさんが、長い間埋もれていたお地蔵さまを発見したことから、地域の人達により、見晴らしのよい場所に祠を設けて安置された。いつも千羽鶴やお供え物が供えられ、地域の人達に大切にされている。



た

■ 大平寺 老津町

真言宗の寺として平安時代の終わり嘉応年間（1169～71）に建てられ、東観音寺、田原長仙寺を結ぶ有力な寺の一つであったといわれる。戸田家、今川家より寄進状を受け栄えた。負け戦で逃げ込んだ徳川家康を助け、現在もそれを伝える「不開の門」がある。参道には、樹齢 300 年以上のイチョウの巨木がある。



■ 高師小僧 西幸町

高師台地で産出する管状や樹枝状など、様々な形をした褐鉄鉱のかたまりをいう。地下水に溶けていた鉄分が、地中の根や茎のまわりに集まり固まったもので、土が雨で流された後に露出している様子が、幼児や動物に似ていることから名付けられた。産出した代表地が、県の天然記念物に指定されている。



■ 高師原

JR 東海道線と豊橋鉄道渥美線、梅田川に囲まれた洪積台地で、標高は 20～30m ある。かつてはやせた地味の原野であり、明治 41 年（1908）に天伯原とともに旧陸軍の演習地となった。第二次世界大戦後は、深刻な食糧事情の解決や、戦災・復員・引揚者の就農のために、軍用地を民間へ開放し開拓が進められた。その後、都市化が進行し、現在は、ほとんどが住宅地になっている。



■ 高縄城址 老津町

戸田宗光が大津（現在の老津）に入り、領主となったのが文明 7 年（1475）であることから、そのころに築城されたと考えられる。城址は、家政高等専修学校敷地とその周辺で、現在は空堀と土塁の一部を残すのみである。城郭の規模は東西 230m、南北 120m で、外側を土塁と堀が取り巻き、西側に外曲輪らしきものがあつたと思われている。



たん も いけ
■ **反茂池** 大岩町

大岩地域の住宅地にある農業用のため池で、池の中には浅瀬があり、ヨシなどが生えている。冬にはカモ類をはじめとした水辺の鳥類が集まる。隣に沢渡池があり、「反茂池と沢渡池」の民話がある。昔、遠くからやってきた大男が、一服するために腰をおろしたところに、大きな尻跡がふたつ並んで窪んでつき、雨水が溜ってふたつの池になった、といわれている。



ち

ちゃばたけ おか
■ **茶畑の丘** 杉山町

豊橋の南部には、お茶の生産地が点在しており、田原市との境にあたる杉山町の南端部では、ゆるやかに起伏する丘に茶畑が広がっている。丘の上には、青い空を背景にオレンジ色の屋根の製茶工場が建ち、印象的な景観を生み出している。



て

てんばくしつ ち
■ **天伯湿地** 天伯町

天伯原と呼ばれる台地にある小さな湿地。天伯山神社の湧水を水源とし、シラタマホシクサなどの湿原植物やハッチョウトンボなどの貴重な生物を見ることができる。かつては、周辺に同様の湿地が点在していたが、開拓により消失してしまったため、かつての天伯原の景観を残す大切な存在になっている。



てんばくさんじんじゃ
■ **天伯山神社** 天伯町

昭和 22 (1947) 年、第 2 次世界大戦後天伯原の陸軍演習場に入村した人たちが社を建てて天照大神を祀り、南高田 (天伯町高田地区) の氏神としたものである。昭和 50 (1975) 年社殿を造営し、境内に開拓記念館が建てられた。東側の斜面には天伯湿地がある。



てんぱくぼら

■ 天伯原

梅田川以南から太平洋岸まで広がる洪積台地で、標高は太平洋側が 80~60m と高く、北西の三河湾に向かって低くなり、標高 20m ほどになる。かつてはやせた地味の原野であり、明治 41 年（1908）に高師原とともに旧陸軍の演習地となった。第二次世界大戦後は農地として開拓が進められ、復員軍人や戦災者などが入植した。昭和 43 年（1968）に豊川用水が通水すると、野菜・花き・果実・畜産品などの有力な供給地となった。



と

とよがわようすい

■ 豊川用水路

豊川用水は、主に東三河地域の田畑や工場に水を供給する水路で、豊橋市の南部には、渥美半島の先端まで送水する東部幹線水路が通っている。豊橋市の南部は、水に乏しいやせた土地であったが、昭和 43 年に用水路が通水したことで、全国有数の農業産出額を誇る農業地帯になった。



とよはしそうごうどうしよくぶつこうえん

ぼーく

■ 豊橋総合動植物公園（のんほいパーク） 大岩町

約 40ha の広大な敷地に、動物園、植物園、遊園地、自然史博物館が整備されたレクリエーションと学びの施設で、周辺からは緑の森のように見える。園内には、東部丘陵の山並みを借景にしたアフリカ園やモネのスイレンを導入した池など、特徴的な景観がある。



な

ななまたいけ

■ 七股池 杉山町

上池と下池からなる農業用のため池で、七つの股の形をしていることから名がついたと言われている。池の背後には雑木林があり、池には鳥やトンボをはじめ、様々な生き物たちが生息している。池の周囲には散策路が整備され、周辺住民の憩いの場になっている。



の

のよりはちまんしゃ しだれざくら
■ **野依八幡社（シダレザクラ）** 野依町

田園地帯の集落にある由緒ある神社で、鎮守の森に包まれている。境内のシダレザクラは、樹齢 350 年以上と言われ、市の天然記念物に指定されている。シダレザクラは一般的に山地に育ち、平地に育つのは珍しい。花は他の桜より早く咲き、四方に垂れ下がる姿は見事である。



は

ばん ぼ ちようせい ち ばん ぼりよく ち
■ **万場調整池・万場緑地** 西赤沢町

万場調整池は、豊川用水東部幹線水路の調整池で、満水面積 343ha、有効貯水量 500 万 m^3 の規模を有する人口池である。調整池周辺には、約 10ha の万場緑地が整備され、遊具や散策路がある。緑地内の展望台からは、池の向こうに沈む美しい夕日が眺められる。



み

み ゆきじん じゃ はなまつり
■ **御幸神社（花祭）** 西幸町

三河国一宮砥鹿神社を本社と仰ぐ神社で、昭和 24 年（1949）に創建された。氏子の多くが、佐久間ダムの建設に伴い水没した北設楽郡豊根村からの移住者であったことから、毎年 1 月に五穀豊穰と新年の祝福を願う花祭りが行われる。



や

や はしらじん じゃ
■ **八柱神社** 東細谷町上大附

創立年代ははっきりしないが、鎌倉時代に伊勢神宮領であった頃すでに神社が置かれていたといわれる。時代は下り、徳川家康が東観音寺に参詣した時、当社に立ち寄って武運を祈願し、神田を寄進したとも伝えられている。元禄 14（1701）年津波のため今の地に遷座された。室町時代の鬼瓦が、市の有形文化財に指定されている。



■ りゅうげんいん 龍源院 は お葉つきイチョウ いちょう 船渡町

普通のイチョウでは、種子と葉が枝先に別々につくが、このイチョウの種子は葉に直接種子がつくものがある。枝の付き方も珍しい。枝分かれする幹には乳（鍾乳石のように垂れたこぶ）と呼ばれる木根を持ち、雌木では珍しい。樹高・枝張りとも 20m を超え、推定樹齢 450 年以上とされる古木で、県の天然記念物に指定されている。



F. 表浜沿岸周辺

この地域は、アカウミガメが産卵に訪れる美しい砂浜と常緑広葉樹の海岸林により形成されています。

西に向かうにつれて、外海の荒波と風が長い年月をかけてつくりあげた荒々しい海食崖が見られ、海岸からは、遠州灘（太平洋）を一望することができ、自然の雄大さを感じさせます。また、台地の上には海岸林に包まれた落ち着いた集落が点在し、東観音寺などの歴史的資源も見られます。



砂浜と海食崖が続く表浜海岸（高塚町付近）

※ マップは P72 を参照

お

■ おのだけじゅうたく 小野田家住宅 高塚町

表浜沿岸の海岸林の中に建つ歴史ある家で、長屋門を有し、風格のある屋敷構えを見せている。主屋は、明治期の建築で、寄棟造棧瓦葺の2階建てで西に増築部の座敷棟を接続している。長屋門は、主屋の南方に建ち、入母屋造棧瓦葺、嘉永2年（1849）頃の建築である。主屋と長屋門は、国の登録有形文化財に登録されている。



■ おもてはまかいがん かいがんりん かいしよくがい すなはま 表浜海岸（海岸林・海食崖・砂浜）

太平洋に面する豊橋市南部の海岸で、砂浜と海食崖が続く雄大な自然景観が広がっている。西側半分は、荒々しい海食崖が続き、三河湾国定公園に指定されている。東側は、比較的広い砂浜となだらかな台地状の海岸林が見られる。海岸林は、つややかな葉の常緑広葉樹が主体で、潮風や飛砂から内陸部を守っている。



き

■ きくじろう なつ さかみち 「菊次郎の夏」の坂道 小松原町

映画「菊次郎の夏」のロケ地となった坂道で、太平洋に近い田園地帯にある。潮風を感じる田園地帯のなかに、緑に包まれた一本の静かな道が通り、急な下り坂から上り坂になる印象的な景観がある。



さ

■ さと ささゆりの里 伊古部町

太平洋岸の海岸林のなかに、約 3,000 本のササユリが植えられ、初夏の開花時期には「ささゆりの里まつり」が行われ、多くの人々が訪れる。地元の保存会の方々が大切に育て、海岸林の中に植える活動を続けており、かつて群生していたころの景観が見られる。



し

■ じびきあみ 地引網 (表浜海岸)

浜から網船を出し岸に対して半楕円形に網を張り、浜から引き綱を引いて網の中に魚を追い込んでいく漁法である。かつては漁業として成り立っており、網を引くには、人手と牛や馬などの家畜が使われていた。現在は、観光地引網が4月上旬から10月下旬に行われている。



た

■ 太平洋

延々と繋がる砂浜に沿って、繰り返し波が打ち寄せる渚が続いている。遠くに目を向けると、水平線がゆったりと弧を描いて見える。一年の始めには水平線から初日の出が見られる。また、冬には水平線に日が沈み、海を鮮やかに染める。



■ たかつかりよくち 高塚緑地 高塚町

表浜海岸の砂浜と国道42号に挟まれた都市計画緑地で、海食崖の上に常緑広葉樹の樹林地が広がっている。自然度が高い植生で、海岸近くの樹木は強い風の影響を受けて一定方向に木が傾いている。キツネ、タヌキ、アナグマ、イタチ、ニホンノウサギなどを見かけることがある。三河湾国定公園にも指定されている。



■ たかとよぎょう 高豊漁港 (表浜海岸)

表浜海岸にある漁港で、延長約4kmにわたる砂浜海岸が高豊漁港に位置づけられている。海岸は水産庁の所管で市が管理している。簡素な船置き場がある程度で、自然の浜から船の出入りをしているため、雄大な自然景観が見られる。砂浜の背後には高さ約40~60mの海食崖がと緑の海岸林が続いている。



と

■ 東観音寺 (多宝塔) とうかんのんじ たほうとう 小松原町

行基が天平5年(733)に建立・開山したと言われる東三河随一の名刹。宝永4年(1707)の大地震による津波のため、集落もろとも大きな被害を受け、正徳5年(1715)頃に再建、現在地に移転された。境内には国の重要文化財に指定された多宝塔がある。多宝塔の建築様式は、鎌倉時代に宋から伝来した唐様に従来の和様を加わった折衷様式で、大永2年(1522)の建築である。



ふ

■ 二川漁港 ふたがわぎょこう (表浜海岸)

表浜海岸の静岡県寄りにある漁港で、延長約5kmにわたる砂浜海岸が二川漁港に位置づけられている。海岸は水産庁の所管で市が管理している。簡素な船置き場がある程度で、自然の浜から船の出入りをしているため、雄大な自然景観が見られる。二川漁港より砂浜の幅が広く、背後は海岸林の緩やかな段丘になっている。



■ 参考文献

- ・豊橋百科事典（編集：豊橋百科事典編集委員会、発行：豊橋市、平成 18 年 12 月）
- ・豊橋の史跡と文化財（編集・発行：豊橋市教育委員会、平成 10 年 3 月）
- ・豊橋の自然探検（発行：豊橋市、平成 28 年 7 月）
- ・豊橋市制施行 100 周年記念 校区のあゆみ（発行：豊橋市総代会、平成 18 年 12 月）

- ◆ 発行：豊橋市役所 都市計画部 都市計画課
令和 3 年 9 月
〒440-8501 豊橋市今橋町 1 番地
TEL：0532-51-2615 FAX：0532-56-5108
E-mail：toshikeikaku@city.toyohashi.lg.jp
- ◆ 写真撮影：宮城谷好是・水谷明博・白井康裕・豊橋市
- ◆ 描画（豊橋の景観）：かんだあさ

2021

豊橋市景観資源ガイドマップ

令和3年9月